明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可
毎月二回一日十五日發行

愛國婦人

愛國婦人會機關

謹而 聖上陛下の御平癒を祈り奉る

聖上陛下御不豫の報は、七月二十日午前十時三十分を以て宮内省より公示せらる。吾人一讀愕然として恐懼恐惶し奉る。

謹て顧るに陛下は嘉永五年の御降誕におはし、寶算正に六十一、恐れ乍ら未だ御大老の御身にあらせられざるが上に近來玉體益々健勝にましまし、龍顔常に麗はしき御趣を拜承して、六千萬蒼生の等しく欣喜に堪へざる所なりき。陛下が嚴冬の寒にも三伏の炎熱にも避寒避暑の爲めに一歩宮城を出で給はず、勵精治を圖り、宵旰國務を勵はせられたる御事は、常に陛下の赤子が恐懼を禁ぜざりし所なるも、之れ一は玉體の御健康尋常普通の上にましますを一證として、國民は實に恐懼の裡に欣悦を感じ、此皇と共に益々我國運の伸張を樂まずんばあらざりき。然るに今日に於て突如此報に接す、寔に之れ擧國千載の憂、吾人焉んぞ驚駭顚倒せざらんや。宜哉上下を盡し内外を擧り、神悸き魂碎け、茫然として殆んど爲す所を知らず。

さは云へ、御左右の御看護は申すも畏し、神明の加護は常に至尊の御上にあり、其後の宮内省報告には、御容態稍々良好と特筆せらるゝに至りしこそ、億兆臣子の歡天喜地の情に堪へざる所なり。仰ぎ願くば天地神明の擁護尚一層厚く、玉體に垂れさせ給ひて、寸時も早く御快癒、平時の御健體に復し給ひ、上皇室の愁雲を排ひ、下萬民の憂悶を散ずるの日の直に至らん事を、謹而所願し奉る。

●人の道（中）

文學博士　南條文雄

倩東に向つて禮拜する心得の第一條は、

○第一、當に生を治むることを念ふべし。之れは親の存生と死後とに拘はらず、子として親の財産に疵をつける樣ではならぬ、親の財産を増し、家が榮へる樣心掛る事が必要であると云ふのでありますが、釋迦如來の時代にも、正しく生を治むること、即ち財産を治むることが出來ない者があつたと云ふ事が推察されるのであります。

○第二、早く起きて奴婢に勅令して時に飯食を作らしむべし。

之れは親子同居中の心得で、若い者は早く起きて飯を煮き、御膳を作らればならぬ、自分で出來なくても召使の者にさせても宜しい、兎に角老人が何時起きても不足の無き樣にせればならぬ。

○第三、父母の憂惱を益さゞるべし。

子は親に心配を掛けぬやうにせればならぬ、親の心配を益すのは我兒の病氣である、論語にも『孟武伯問孝、子曰、父母唯其疾之憂』とあつて、特に病氣を心配するものであるから、體を大切にして病氣に罹らず、兩親に心配を掛けぬやう注意せよと云ふのです。

○第四、當さに父母の恩を念ふべし。

親の恩の重い事を思ふて忘れぬ樣に心懸ければならぬ。

○第五、父母疾病あれば當さに恐懼して醫師を求めて之を治せしむべし。

之れも當り前の譯であります。

以上五ヶ條は子として守るべき箇條でありますが之れさへ守ればそれで直に孝行息子と云はれるかと申すと、左樣ではありません、先づ子としては必らず之れだけの心得がなくてはならんと云ふのであります。

それから、東に向つて禮拜する折の心得の他の五ヶ條、之れは親となつての心得でありますが、先づ

○第一、當さに惡を去り善に就かしめんと念ふべし。

子供に惡い癖をつけぬ樣と思へば、口で云ふ計りでは役に立たぬ、先づ自分から惡を云はず、惡を念はず、惡を作さず、善を守るやう心懸けて、自ら子供の手本とならればなりません、戊申詔書中に華を去り實につくと云ふ詔勅がありますが、華を去り實に就くのは即ち惡を去り善に就くのであります。

○第二、當さに計算讀書を教ゆべし。

計算及讀書を教へればならぬ。

○第三、當さに經戒を持つことを教ゆべし。

御經にある所の、諸惡莫作衆善奉行の教を持つやう教へればならぬ。

○第四、當さに早く與めに婦を娶るべし。

○第五、家中の所有は當さに之を給與すべし。

○第四條は子が相當の年齢になつたならば嫁を貰ひ或は又嫁にやると云ふやうにせればならぬと云ふのでありますが、今日尚早婚の弊が存して居る印度に於て、釋迦如來が此の箇條をお立てになつたのは頗る有意味のことと思はれます、第五條は家中の物は、夫々分配する事であります。（つゞく）

●前號第一頁本稿(上)の内、印度長者の名をシーカラーとあるはシーカーラの誤植につき訂正す

愛國婦人會秋田支部第二回會員總會記念撮影

本號主要目次

▼謹而聖上陛下の御全癒を祈り奉る……
▼聖上陛下御容態……
▼聖上陛下御惱未の御模樣……米田侍從談
▼秋田支部第二回總會記念撮影……寫眞版
▼同總裁殿下御旅館内御座所應接間及庭園……同
▼人の道……南條博士
▼上流の婦人の風敎に及ぼす行動……小川博士
▼座居の弊害……土肥博士
▼書道眞訣……櫃地正邦
▼氷水の話……村松學士
▼ウヰツチントンの猫……芳嶺
▼北白川宮殿下……如燕
▼鯉の裁判……風谷
▼其他懸賞和歌、俳句、料理等、外に附錄本會々報二頁
●本紙(附錄共)十八ページ
●アルプス山の景●江原氏說及婦人の力…以上休揭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聖上陛下御容態

聖上陛下御不豫の報一たび傳へらるゝや上下を擧て恐懼措く所を知らず國民は唯御容態書を一刻も早く承り御容態の少しにてもお宜しきを漏れ承はらんとのみ祈り奉る、承る所によれば陛下には三十七年末頃糖尿病御發病、三十九年一月末、慢性腎臟炎御併發、右御宿痾は次第に御輕快に赴かせられ本年一月頃には殆んど御全快の御模樣に拜せられたりと承る、却説今回御發病前後の御模樣を記し奉れば、

▲七月十四日　御腸胃症に罹らせらる

▲七月十五日　樞密院會議に臨御、終って一旦御學問所に入らせられし際近侍の者は龍體聊か御恙あらせられずやと拜し奉れり、此日より少々御嗜眠の御傾向あらせらる

▲七月十六日　御學問所に入御、政務を聽はせらる

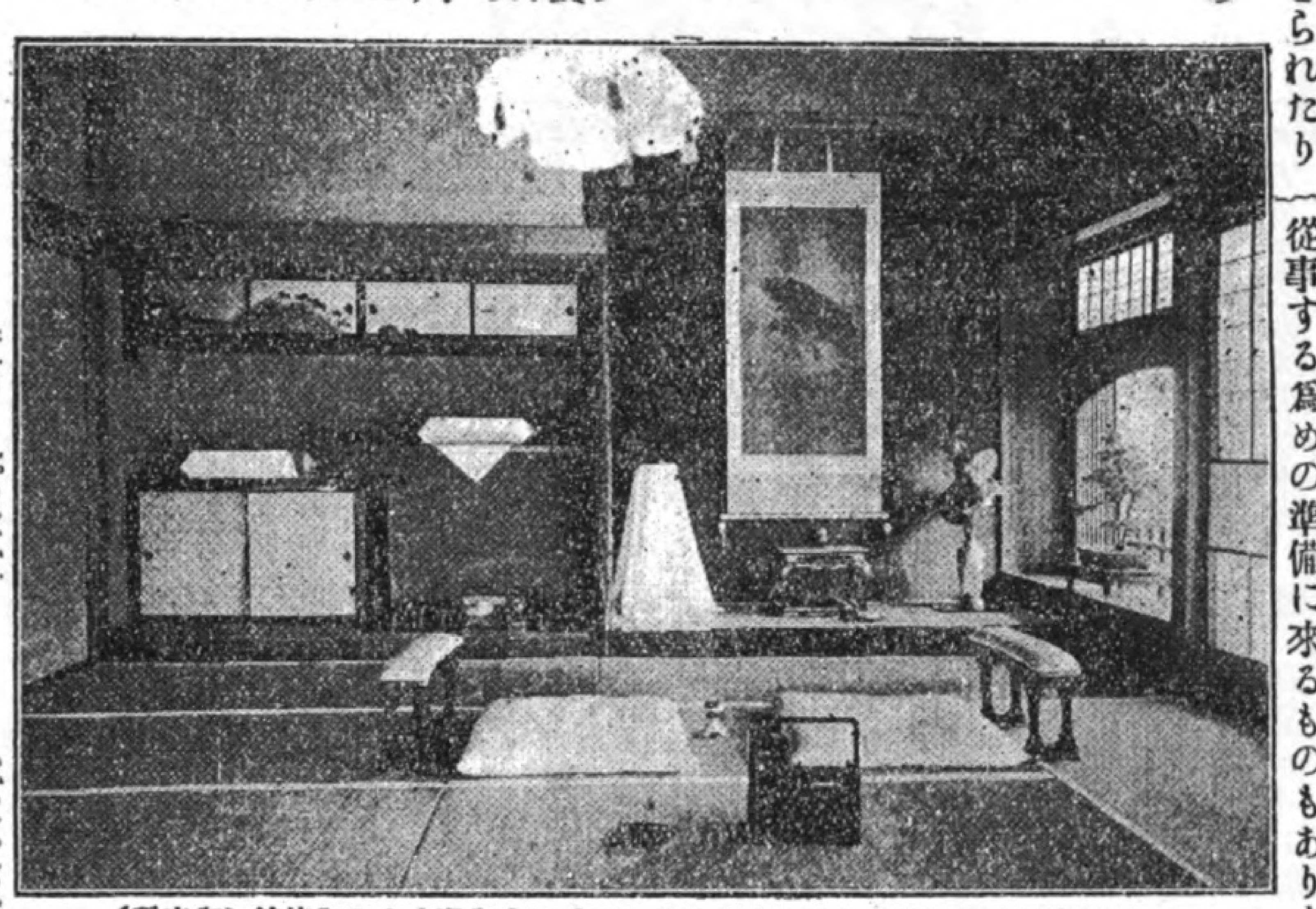
▲七月十七日　御學問所に入せられず

▲七月十八日　此日より御嗜眠一層加はり御食氣減少せり

即ち今回の御發病の兆候は實に十四日に始まり而して御病勢は日を追うて稍御顯著となり十九日に至りて突如由々しき御重態に陷らせ給ひたるなり、十九日以來の御容態は各新聞紙上に發表されたる如く未だ御輕快に赴かせられず六千萬の赤子憂色深し、左に本紙〆切前最近の御容態を謹みて記し奉る。

▲七月廿七日正午宮內省公示

今二十七日午前九時岡侍醫頭青山三浦兩博士拜診。昨夜御睡眠御少く甚しく御倦怠の狀態にあらせられ候處今午前三時頃より御安眠遊ばされ御安靜の體にあらせらる（中略）御脈は尙不整なれども其力强實御呼吸の不規則狀態は少しく減少す御舌苔は黃褐色にして稍薄く少しく滋潤す御腹部の鼓脹は減退す御食量は牛乳重湯スープ其他合計千五百六瓦御攝取遊ばさる御尿量は二十六日午前六時より二十七日午前六時迄に八百八十二瓦糖分及蛋白は前日に比し少しく增加す御大便は少量づゝ數回あらせらる總體の御模樣は昨日に比し多少御緩和の樣に拜せらる。



秋田支部第二回總會台臨の爲め總裁殿下秋田市御滯在中の御旅館（御座所）

●社會風敎上に及ぼす上流婦人の行動

法學博士　小川滋次郎

▲眞面目なる歐米婦人の自覺

曩日歐米を漫遊した折に最も感じたことは、中流以上の眞面目の家庭の令孃が家事の實地研究の爲め、孤兒院や養育院感化院などに、自分から出て行つて、或は子供のお守りを爲たり、繈褓の洗濯を爲たり、老人の面倒を見てやつたりなどするといふ風が盛んになつた事でありました。中には此方面の慈善事業に專門に從事する爲めの準備に來るものもありますが、多數は將來家婦となつた曉、召使を使ふにも、自分に家事上の經驗が無いと能く使へない、子供を育つるには、豫め稽古をして置かねば立派に育てられない、と云ふ事から、それ等の實地研究を爲るのであります、必竟婦人の眞正の業務は家庭にあることを自覺し、子女の敎養に重きを措くといふ思想が高まつたのであります。

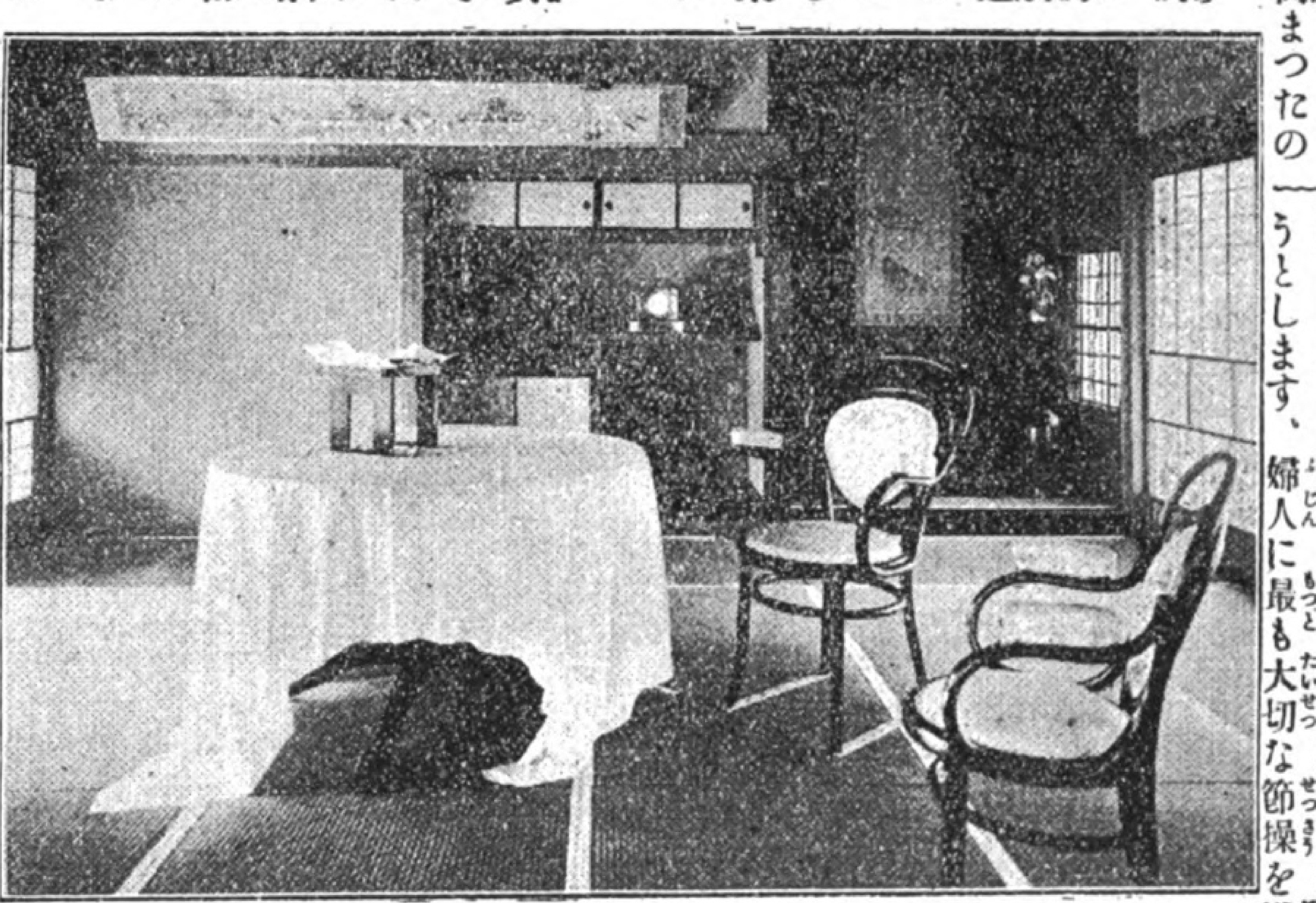
勿論他の半面には、虛榮の爲めに、交際時季になると外ばかり飛び廻り、酒を飲み歡樂に耽る婦人もあります、又參政權運動に狂奔するやうな婦人もありますが、併し眞面目な考を有つて居る婦人は、却て之を苦々しき事に思ひ、斯の如き風習に染まぬやうにと警戒して居る樣が見られます。

▲由々しき大問題

何故家庭に重きを措き、子女の敎養に最も力を盡すやうになつたかと云ふと、近年歐米では生存競爭の激烈其他の原因からして私生兒の死亡率が著しく增加して來たが、此死亡率の增加は、つまり國民の元素を弱する理で、由々しき大問題でありますので、識者は大に之れを憂ひ其結果として兒童保護の機關が、西洋諸國の各地に出來ました。

▲上流社會より起る流行の危險

我國で婦人の服裝等の流行は、藝者や役者などから出ますが、歐米では上流の婦人から出るのであります。之れは何れが危險であるかと云ふと、上流社會から出るのが遙かに危險であります。藝者や役者は未だ一般社會から賤しめられて居りますから、どんな立派な服裝でも藝者から流行つて來たと思へば、餘り難有くも思へませぬ、從つて弊害も少いのでありますが、貴婦人から起つた流行だと聞くと、何となく心持ちが能い、流行に權威が附いて居るやうに思はれる許りで無く、上流から來る流行は必ず大袈裟でありますから、なか〳〵容易に其を趁うて往けない、さうかと云つて寶石入りの指輪は欲しい、それを欲めたさの一心から終には如何な事をしても其虛榮心を滿さうとします、婦人に最も大切な節操を犧牲に供しても唯一つの指輪を得たい、と云ふやうなさもしい心も起つて來るのであります。



同　上　（應接間）

▲女の犯罪者は多く中以上の家庭から出る

之を思へば上流の婦人が、金のあるに任せて華美贅澤の服裝を凝すのは、一國の風敎上に少からぬ害毒を流すものですから、上流の婦人は大に反省しなければならぬ事と思ひます。

昔は婦人の犯罪者は多く下等社會から出ましたが、今日では全く反對に、中以上の家庭から出ます、之は何人も意外に感ずることでありませう。誰でも女の犯罪者は彼の製造場に勤むる女工や商店の賣子などに多いと思つて居ります。又道理上から考へても、彼等は賃金を取り多少金の自由が利きますから、墮落し易いのでありますが、近來は之等の女工などから出る犯罪者の割合よりも、上流の家庭に奉行して居る女中などから出る犯罪者の割合が多いのであります、之れ全く虛榮心の結果でありまして、せめて奧樣の外形だけでも眞似て見たいといふ、淺果敢な心から、つひ犯罪を犯すのであります。既に法律上の罪を犯す位でありますから、節操を守るなどいふ觀念は尙更らありませぬ。

昔は上流社會の家庭に行儀見習として行けば、身持も正しく安全なものであつたが、今日は之れと全く反對で、上流の家庭に小間使などに出ると却つて惡い結果に陷るなどゝ云はれるのは、慥に上流社會の大なる耻辱であります。

國家の中堅たるべき中等社會も、生存競爭の烈しくなるにつれ貧富の懸隔が甚だしくなつて、漸次に減少します。故に國民の上流者が健實な心を持つて、衆を感化する樣に努めなければなりませぬ。積極的に我邦の婦人が爲すべき事は多くありますが、先づ消極的に不眞面目な贅澤な風習を止めた丈でも、國家の爲めには非常な利益であります。私は消極的に唯勤儉說を唱ふるのではありませぬ、けれでも上流婦人の一擧一動が、意外にも一般國民の上に大影響を及ぼすことを思ひ、茲に反省を促す次第であります。

▲血判の祈願狀▼

聖上陛下御惱の公報始めて都下の各新聞紙上に發表されたる七月二十一日午後一時、九段靖國神社に參拜し暫くは何事か祈願せしが軈て一封の紙包を恭しく懷中より取出し之れを神前に捧げ置きて立去りたる一青年あり、同社の神宮怪みて之れを披き見しに、『謹みて　聖上陛下御病患の御快癒を祈り上げ奉る』と謹書し宮永順太郎と云ふ署名の下に赤黑く讀みたるは擬ふ方なき血判なりき、此篤志の一青年は即ち敎養所出身の陸軍中央幼年學校生徒にして目下夏期休業中を敎養所內に歸寓する富永順太郎（福島支部選出）其人なりしなりと、誠に奇特と云ふべし。

愛讀者諸君へ謹告

▲本誌の代金　は前金三ヶ月分七錢でありま［illegible］ります、此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御送りになる時は［illegible］便貸もいりませんから御便利でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

［illegible］日の御參考に御保存願ひます。

▲郵便切手　で御註文又は御送金の節は必らず一割增に願ひ上げます。

▲愛國婦人發行所　の振替口座番號は每號新聞［illegible］東京一一二八一番であります。

▲お手紙の御住所御姓名　は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認め願ひます。

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●御惱床の御模樣

二十四日午前五時　米田侍從の談

天皇陛下今回の御病氣は是迄にない御大患で一時は非常に御心配申上げたが最早御快方に向はせられ侍醫達は警戒を怠らぬが私共は既に御平癒期に入らせたものと拜察する、私が去る十七日の朝拜謁して千葉縣にて水鷄獵をした模樣を奏上した時迄は御壯健に渡らせられ、私が「米田も今年七十四になりまするので田甫の中を飛歩き水鷄を追ひます時かんかんと日光に照付られまするとと暑さを感ずるやうになりまして斯樣に顏も燒けました」と申上げた處「陛下は私の顏を御覽ぜられてカラ〳〵と御大笑遊ばされ至極御元氣であらせられた、然るに其の日の午後德大寺侍從長が御前に出た時は平日と異り御顏の色もお惡かつたさうで今から思ふと其日から御病態であらせられたものと存ずる、併し私共は格別の事とも思はず十九日の晩になりますと侍從職からの電話で「容易ならぬ御病狀だから、直ぐ出仕するやう」と通じて來たので俄に驚愕參内して御寢所に至ると陛下には恰も四十度以上の御體溫で甚く御苦しみで四十年間仕へまつれる私も未だ曾つて拜したことのない御難儀の玉體に胸は塞がり淚はポロ〳〵と溢れ總身ぶる〳〵と顫へました、聽て私も斯くてはならじと勇氣を起して御用を勸めそれから引續き昨夜まで詰切つて居りましたが陛下は十九日の夜は殆んど終夜御苦しみあり二十日も四十度以上の御體溫で非常に御弱り遊ばされ、私共はお側で拜見して居て忍び切れない苦しい思ひを致しました、其夜は彌御重態にならせられ何とも申されぬ感に打たれましたが夫れも一時で惜々千古東西に類ない聖天子にましますゆゑ必らず御全快の期來るべしと信じて專心一意御手當萬端の御用を務め二十一日になりました處少しく御體溫が減じ御苦しみも薄らいだやうに拜せられ其夜はうと〳〵と眠り給ふが如くにもあり又時々御醒覺の樣にもあらせられた、斯て廿二日に至り御體溫は三十八度より卅七度五分に下り御食氣も進み牛乳スープ、重湯など約五合も召上り御尿水も十分にて御大便もあり餘程御樂にならせられ御枕邊にありて絶間なく御看護申上げさせらるゝ　皇后陛下に御物語ある御言葉も遠く隔りて控へ居る私共の耳にまで明瞭と拜聽さるゝやうになりましたので侍醫達の意見により御褥を換へる事となり其旨を申上ぐると「然うしよう」と仰せられて　皇后陛下と柳原典侍とにて御世話申上げられ久方振り是迄召されし白羽二重の御飛代(御寢衣)を脫ぎ新らしき白羽二重の御飛代に御着換あり高倉典侍千種權典侍が御寢所を御世話申上げ他の各女官達が御褥を取片附け新に御蒲團を敷き參らせ玉體を移す事となつたが何樣御體量十八貫餘と拜せらるゝ御肥滿の玉體の事とて女官達の手に及ばず私と石山、慈光寺、澤、日野、西、等の各侍從とで靜に　玉體を抱へ奉て移し參らせた斯て後　皇后陛下は氷嚢もて聖上の御頭を冷させ給ひ高倉典侍、千種典侍其他の女官が御心臟を氷嚢にて冷し奉り柳原典侍、園權典侍は交る〳〵御足を擦り奉つて居られたが聖上にはやがて午後十一時半頃より御心地よく安々と御眠に入らせられ二時間半ほど御安眠ありて後御目覺あつたが御體溫は三十七度と下り御脈も鮮かに御氣分御明瞭にて御顏色誠に晴々とならせ給ふたので一時は密雲に鎖されたやうな宮中の大奥も始めて一道の曙光に接したやうに皆々愁眉を開いたのであります、廿三日に至つては愈々御快方に向ひ全く御樂の御模樣にならせられた、御病室は十八疊と十疊と二室に跨れる常の御殿で南向きに造られ御庭前には樹木などなく廣々として芝生青く茂りたるを一樣に刈られあつて遙か彼方の森を傳ふ涼風は芝生の上を撫でて御病室に吹いて來る御病褥は決して高い寢臺などではなく藺の香高き疊の上に白羽二重の御蒲團を重ねて敷き其上に　玉體を安んじ給ふ、廿二日の夜からは御氣分御明瞭に成せたので、皇后陛下の外は柳原高倉兩典侍園千種兩權典侍と石山、慈光寺、澤、日野、西、藤波等の外は次の室に控へ女官達も交代して御用を承はる事となりました、猶又今回の御不例發表されてから我が全國の臣民が神社佛閣教會に御平癒を祈り且諸樂會興行を中止して謹愼せる次第は陛下の御平靜を犯し奉るを慮つて御全快迄奏上せぬ事に致してありますが　皇后陛下には一々之を御存じあつて非常に御滿足に思召さるゝ由である、斯く　皇后陛下は　天皇陛下に代りて國家の重大事件を御聽あり且つ御看護に努め給ふ御賢德は只々有難き次第に存ずる今回の御不例に就て各女官達何れも一身を獻げ奮勵して居られる中にも柳原典侍の如き御發病以來五日間衣帶も解かず入浴もせず髮だも梳らず晝夜御側に在りて御大便御尿水の御世話から絶間なく御足を擦りて一心不亂に看護して居られる、又園權典侍も柳原典侍と共に萬事の御用に寢食を忘れて怠らず忠義を盡して居られる其外宮中一同誰劣らず忠誠を挺んで偏に御平癒を祈つて居るのは更めて申す迄もない。

(國民新聞記)

聖上陛下御不例について　御歌所主事　阪正臣

雨つゞき日でりつゞきのそれよりも民のなげくは天皇のみやまひ

天つ日の御影いつもと異なれば誰が顏見てもいろなかりけり

●座居の弊害(下)

醫學博士　土肥慶藏

▲坐ると命が縮まる▲水の流れと血の流通▲心臟の機關車が空廻り▲心臟は拳の如し

人間が坐ると云ふことは、極端に云へば即ち命を縮めると云ふことです、何故かと云ふと、御承知の通り人間の身體は心臟と云ふものがあつて、始終恰も蒸汽機關の如くに働いて居る、人間が眠つて居る折でも心臟は少しも息まずに血行をして、毎二十七秒時間に血が心臟から出て又心臟に戻つて來る樣にして居る、我我が最後の呼吸の止まぬ限りは心臟の此働も休まぬのである、そこで若し血行中に故障が起ると夫が直に心臟に影響する、例之茲に川があつて絶えず水が流れて居る、今若し其流に堰をしたならば、水は必ず堤を崩して左右に氾濫するが、下流に却つて水量が減て田畑が荒れる、之と同樣に若し僅でも血行の流通の惡い處が出來たならば、夫は結局必ず全身に故障を來さなければならぬのであります。我々が長く坐つて居ると足が痲痺る、此の痲痺ると云ふことは即ち足を曲げて上から重いお尻で壓へ附けるから下肢の血管に血の通ひが惡くなるのです、殊に靜脈は皮膚の表面に近い所にあるから、壓へ附けられると、血液の心臟に運流するのが妨げられる、從つて極端に云へば心臟の機關車が空回轉を爲ねばならぬ理窟です、それも日に一度二度位はと輕蔑して居ると、一年立ち二年立ち十年立ち五十年百年と云ふ人間の壽命のある間に、幾度となく繰返へさるゝ爲めに、不充分な血液で運轉して居る心臟の機關が早く傷むのは明白な理窟であります。

幸に今日の學校では卓子で腰を掛けるやうになつては居るが、家庭では矢張り坐る時間が多い、私は衞生上から見て少少行儀が惡くともちつと位は足拋出して居る方が宜しいと思ふのです、僅の事の樣であるが、塵も積れば山となつて心臟の働が弱くなる、血液の循環が不充分になる、貧血になる、營養が惡くなる、背丈の延べきが充分延びぬ、肥大なるべき腕が痩せて細い、張り出すべき胸が凹み、頭は重くて前に下る、病が弱身につけ込む、夫で百年の天壽の半をも完ふせずして早く夭ると云ふ、誠につまらぬ結果になるのも、必竟は坐る習慣から來り得ると確信するのであります。

其證據には、心臟の大さは恰度拳の如き者であると云ふ、即ち身體が虛弱なれば拳も小さいから心臟も小さく、身體が强壯なれば拳の堅いやうに心臟が大くなるのです、之れを見ても判りませう、元來心臟を惡くするのは當人一人の損ばかりで無い、虛弱な親が生んだ子孫は必ず虛弱ですから、子々孫々相傳えて次第に體格が小さくなり、體質が虛弱になる、結局國民が生存競爭に打敗けて衰亡に就くの外は無いことになるのです、

斯樣な譯ですから、將來家庭の主宰者たるべき、若い婦人方が新に樂しき家庭を作らるゝ場合に、自ら率先して坐る習慣を止め、お子さん方にも餘りお行儀を云はず、腰をかける習慣が漸次に一般に行はれるやうに御盡力を願ひたいのであります。

何程體育を奬勵しても、母たる婦人が强壯でなくては其効果は知れたものです、假令父親が少し位弱くても、丈夫な母の子に弱い者はありません、昔から英雄の母は皆强壯です、何卒わが日本に偉い者が澤山生れて、益々國家を富强にして、此明治聖代に生れた御恩の萬分一を上　天皇陛下に酬ひ奉る樣にと、若い婦人方が智育德育の琢磨と共に體育の改良に最も御注意あらんことを切に祈ります。(大日本婦人衞生會に於ける講演の一節)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の女の節制

棚橋絢子

▲有意義のお土産が欲しい

近年避暑旅行が大變に流行で、上流社會の人は勿論のこと、それ程餘裕の無い人までも、自宅に閉ぢ籠つて居るやうでは世間の手前恥しいとか、友達に自慢が出來ないとか云ふので、態々工面してまでも轉地をすると云ふやうな人もあるさうですから、本年も最早遠近の避暑地は定めて賑やかなことでせうが、折角避暑に行つても、唯日にやけて色が黒くなつて歸つた、大變に面白かつたと云ふだけでは誠に無意義な話ですから、避暑にでも行つたならば、何か其處に意義の有る仕事を土産に持つて歸つて欲しいと思ひます。

一例を擧げると植物採集の如き、避暑旅行を致す婦人には至極宜しくはないかと思はれます。深山幽谷を踏み分けて、珍奇な草木を捜さなくとも、朝夕の散歩の折などに眼に觸るゝに從つて採り集め研究して植物上の智識を磨くやうに致したらば宜しい。又其地方の名所古蹟を探り、或は神社佛閣などに詣でゝ地理や歴史上の研究を爲すと云ふやうな事も、頗る宜しいでせう。兎に角避暑旅行でも致したらば、單に面白かつたと云ふばかりでは無意味。これは獨り避暑旅行のみに限らず、總て何事を爲すにも左樣で、例之音樂を聞くにしても、唯聞いたが面白かつたと云ふだけでは不可ぬ。彼の歌のあの調子は誠に趣味があつた、彼の聲は何處から出るのであらう、成る程あんなに調べるとあゝいふ音が出るのかなどと、其妙味を解得して來ねば趣味も無ければ利益にもならぬのであります。萬事に此心掛けが肝要。

▲今の婦人には趣味の修養が足りぬ

總體現今の婦人達には趣味の修養が不足なやうです。婦人には和歌俳句を詠むなり、茶の湯を致すなり、花を生るなり、或は又書に堪能であるとか、箏を調べるとか、隱し藝とまでは行かなくとも、何か一つ他人の眼前で現はす事が出來るだけの技倆があつて欲しいと思ひます。現今の婦人には此の技倆が足りないので、友達同士が集つて今日一日を愉快に遊びたいと云ふやうな場合にも、歌一首咏むでもなければ、茶を立てるのでもなく、直にカルタやトランプなどの遊びか、でなければ唯無益な雜談である。誠に無味乾燥、少しも雅味と云ふものが無い。其處に何か一つ前に述べたやうな技倆があつて、お互に出し合ふやうにしたらば、どんなに座席も賑い、高尚に愉快に遊べるでせう。且婦人に之等の趣味があると、自然起居の上にも夫れが現はれて、言語動作も從つて上品に優雅になり、一家を平和に治めて往く上にも亦少からぬ利益を與へませう。しかし、如何程可い事柄であつても、耽溺やうでは宜しくないのですが、一ヶ月なり二ヶ月なりの避暑休暇の間に之等の趣味を養ふ事も、至極宜しい。

秋田支部第二回總會台臨の爲め總裁宮殿下秋田市御滯在中の御旅館(庭園)

▲夏一番の納涼法は洗濯です

夫れから之れは私が度々お話する事ですが夏季の一番の納涼法は洗濯です。夏の納涼には洗濯を爲るが一番宜しい。拙宅の下婢が暑い〳〵とこぼして居ると、私は、それ洗濯を爲なさいと云つて、直に洗濯をさせますが、奈何な暑い日盛りでも、洗濯をして居ると大變に涼しい。少しも暑さを感せぬ。暑い〳〵と云つて寐轉んで氷を飲んだり、晝寐を爲たりするよりも、いくら身體の爲めにも宜しく、いくら涼しいか知れない。それも不精々々をやくの樣では、何んにもならぬ。稽古の積りで一生懸命に洗ふのです。それで、私は生徒達にも夏期を凉しく暮したいと思ふならば、成る可く暑い日の眞盛りに洗濯を爲さいと勸めて居ります。

▲洗濯の次ぎは髪結ひ

洗濯の次ぎには先第一に自分の髪を結ふが宜しい。諺にも髪かたちと云つて、結髪が上手に出來て居るのと惡いのとは、大變に其人の姿の上に影響します。何時出逢つて見ても結髪が格好に出來て居ぬとか、何時でも亂れて居る婦人を往往見受けますが、之れは大變に見苦しい。殊に夏向は一層暑苦しく感ずるものです。それで夏期には一段と清洒致して置きたい。且又何時でも結髪が亂れて居る婦人は、心根までも締りの足りないやうな感じが致すものです。

ところが頭髪を上手に結ぶことは、餘り容易な業では無いので、避暑休み中に稽古を致したらば至極宜しいでせう。總體夏は頭髪が結ひにくくて冬は結ひよいものですが、避暑休みの間に稽古致して置くと、追々寒さに向ふ頃には可なり上手に結べるやうになります。かう申すと、現今の婦人の中には、頭髪は自己で結べなくとも髪結ひがあるから宜しいと云はれる婦人があるかも知れませんが、總體女が自己の身の廻りの事に他人の手を借りるやうでは不可ぬ。必ず自己の手ばかりで始末爲なければならぬと云ふ風に私達は育てられたので、私は丁度十四歳の頃に一夏結髪の稽古を爲ました。當時は現今の髪形とは違ひ、殊に上方風にキチンと結ぶので、大層骨が折れたのですが、其の歳の冬にはやつと人前に出ても恥しからぬ丈に結べるやうになりました。それゆゑ只今でも人手を借らずに自分で結で居りますからとんと不自由はありませぬ。

▲猥らな姿を爲ぬこと

それから、暑い日などには往々浴衣に扱一つと云ふやうな締りの無い姿を爲て居る婦人を見受けますが、あれは誠に見苦しい。よし人目の無い所に居ても、左樣な猥らな姿をせずに、廣い帶が餘り暑苦しいとならば、せめて男帶位のものでも締めて居たい。でなければ、見苦しいばかりでない、不意の事件でも起つた場合には、意外恥辱を受けねばならぬ事も生じます。いくら暑くとも肩を脱いだり裸體になつたり爲ないことは勿論ですが、之は唯習慣一つでして、そんな習慣を付けずに居ると、稀に衣服を脱げは却つて心地が惡い位のものです。

▲色彩の調和に注意せよ

衣服の話が出た序に、今一つ注意したいのは、色彩の配合のことです。自己の衣類ばかりで無く夫や子供の衣服などを選びますのにも、大變此の智識が必要で、衣服と半襟、衣服と帶など、色彩がよく調和しないと、折角衣服に高價を拂つても、見たところが少しも引き立たぬのです。品質はさまで上等のものでなくとも、配合に充分注意しますと、何となく上品にも見え、引き立ちも致ます。ですから婦人は之れに就ても相當の研究が必要であります。

跡見女學校の施米

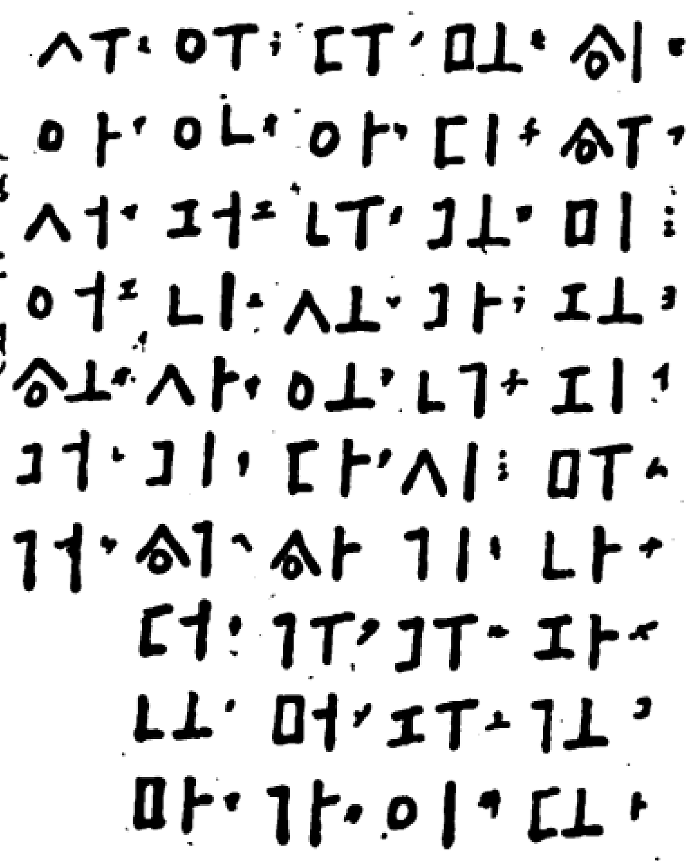
本會評議員跡見女學校長跡見花蹊刀自が曩日叙勳の恩命に浴せられたるを祝する爲め同校々友會にて祝賀會開催の企てありたるを刀自の希望に依り其費用を以て跡見女學校所在小石川區內の貧民に施米することゝなり區役所とも協議の上去る七月十五、十六日の兩日一戸平均二升の割合にて千六百九十九戸に施米されたるが、當日は午前八時頃より同校出身の貴婦人達及び理事、校友等數十名甲斐々々しく襷掛にて立働き幾多の窮民は區役所より分ちたる施米の證を持ちて定刻前より詰掛け數十俵の白米は兩日共午前十一時頃には已に分與を了りたりと。

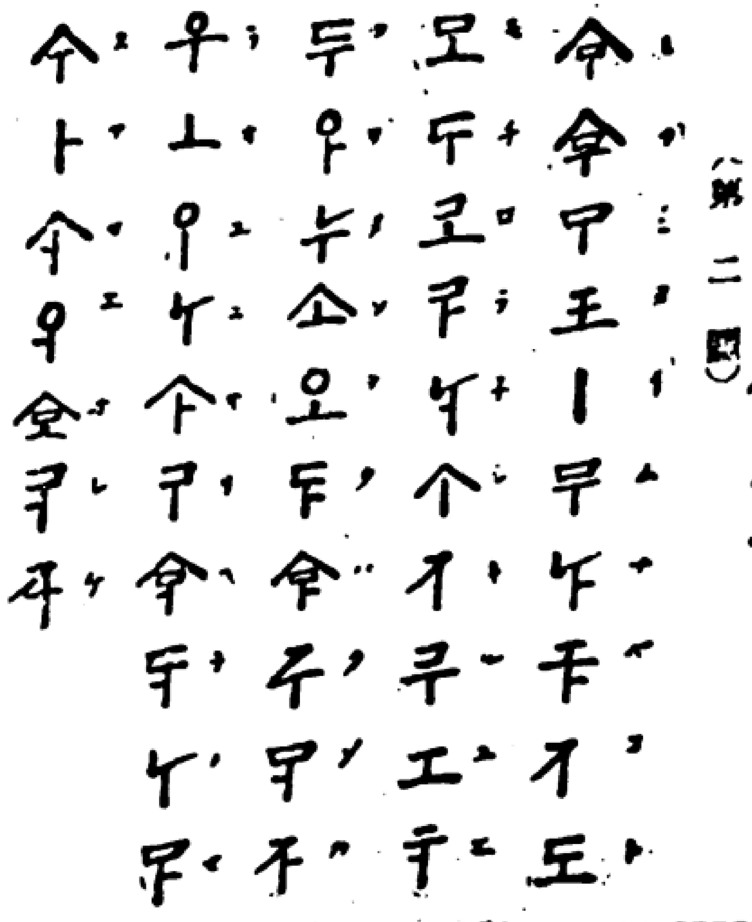
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

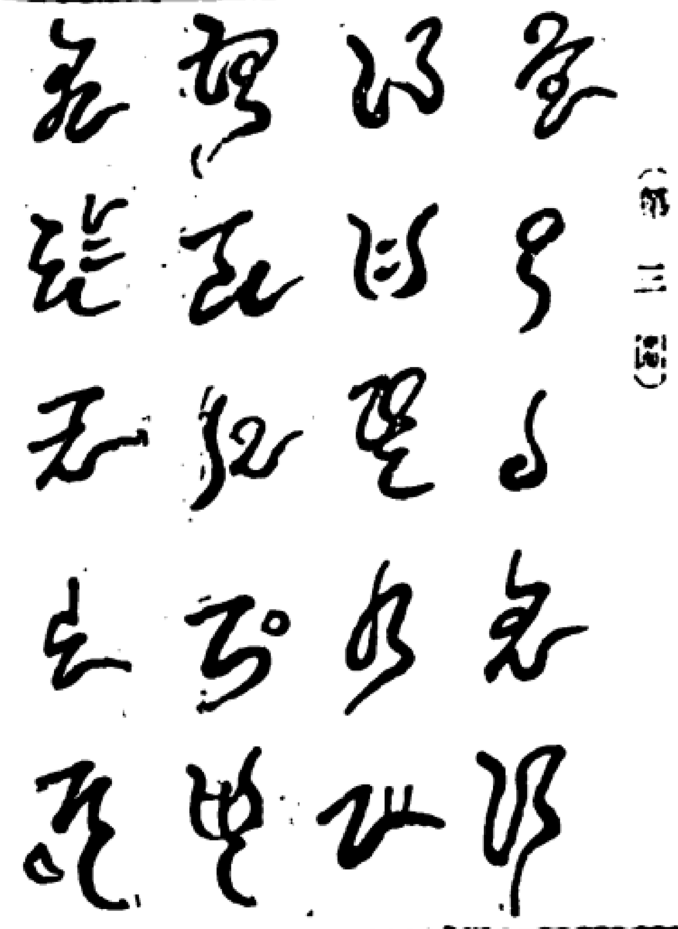
◉書法眞訣（四）

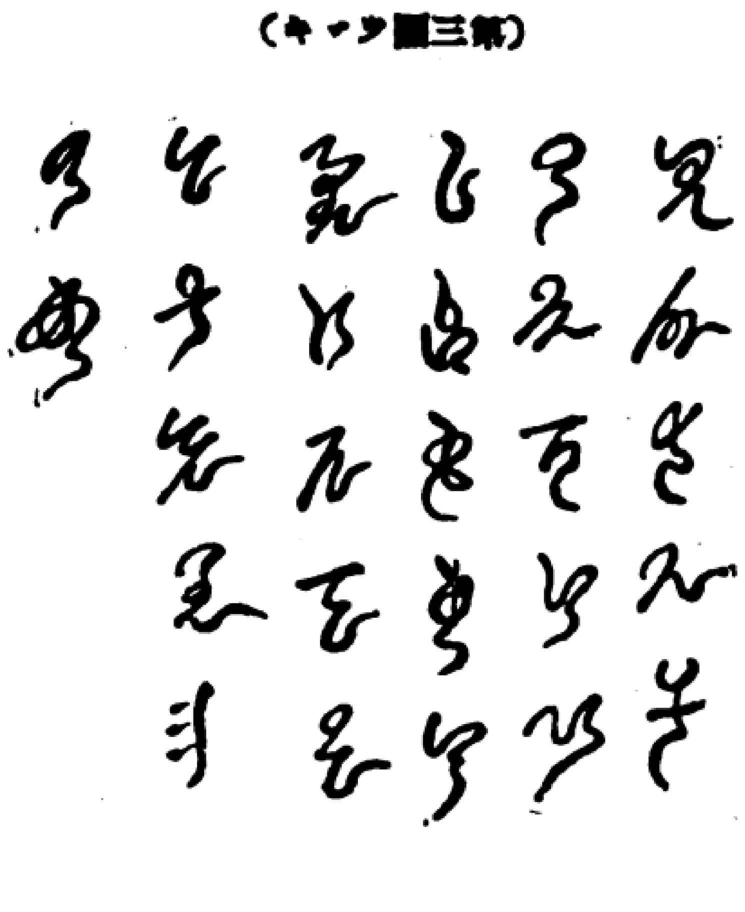
横地正邦

本邦上代文字の形體は左記の如し、第一圖は縱組にして文字原始の當時には總て此の文字を用ゐて相互の意旨を通ずるの具と爲せり、後ちに變じて横組みの文字を用ゐしとあり、其の字形は上記に示せし第二圖の如し、此の外に多少の形狀を變じて書きし文字數種あり、此の數種を混用して草體文字あり、之れは第三圖に示めせし體なり。


（第一圖）


（第二圖）


（第三圖）


（第三圖ノツヾキ）

其の他詳細に說明を附し且つその字形を擧ぐれば數十回の揭載を要しても猶餘りありしも各所より書道の變遷來歷より書法の眞訣の說明を望まるゝ方の多ければ本邦古代文字の說明は他日に讓りて次回よりは逐次書道の變遷を揭載して諸彦の參考に供せんとす。（つゞく）

●氷水の話

醫學士　村松平次郎

五月雨の鬱陶しい時候も過ぎて蒸し暑い土用に入る、學生兒童の待ちに待つた暑中休暇は來た、昨今の暑氣は又一通りでない、氷屋は軒を並べて市中到る處客を呼ぶに忙はしい、此時に當つて醫者は曰く氷水胃に害ありと、然も自身氷を飲まぬ醫者幾人かある、是を稱して醫者の不養生といふか、古人言ありと云ふべしである、今こゝに衰弱したる熱病患者があるとする、患者は一切食物を攝取を喜ばない、醫者は是に氷片を與へよと云ふ、胃に害ある氷を與ふるが否か與へざるが是か、思ふに氷の極度に冷却したるもの是れ即ち氷である、隨て氷に對する說も兎角極端に走るのであらうか、此處に疑問は生ずるのである、抑々氷水の害は何にあるか、不良の氷、不潔なる氷店の如きは今こゝに言はぬ、氷の害は極度なる胃腸の冷却にある、抑々胃腸の消化盛なる時は血液のこゝに集合する事も亦多いのである、是を冷却すれば血管は收縮し、血液の循環不良となり、消化の機能が減ずるは、言ふ迄もない、氷水の飲用が胃腸に害ありと云ふはつまり此處である、故に氷水は食事の際或は食後間もなく飲むべからずと言ひたい、世間によくある例だが、夕食後散歩に誘ふといやだと云ふ、氷のみに行かうと云へば夫れでは行くと云ふ、斯う云ふ人に限つて氷あづき、氷じるこなどを喜ぶ、あづき、しるこ皆胃を迷惑さする不消化物である、是を冷やして喰ふ、然も是が夕食後の散歩である、腸胃を害する事なくんば幸甚、それで夜になつてから腹が痛むと云ふ、氷こそよい迷惑な話ではないか一體氷の德は渴を醫し、凉を納るゝにある、是を適度に用ふれば毒も藥となるたとへがある、炎熱燃くが如き夏の日、吾人は唯氷を嚙んで此苦界を脫するを得るのである、五體燃えて火の如く兩眼眩んで將に倒れんとする時、柳の下のアイスクリームは彼等勞働者の生命ではあるまいか、實に氷は夏の藥である、余は嘗て酷暑伊豆の天城を超え、峠の茶屋に思ひ掛けなくも氷を得た、其當時の快味今も忘られぬ一つである、熱病患者に對する氷は恐らく天與の恩惠であらう、故に曰く「氷飲むべし飲むべからず」と、要するに氷の飲用は一得一失飲むもの其場合と分量とに注意すれば實に良藥口に甘しである。

凱旋サイダー

◉臺所のお菓子

小供「お母さん臺所に何かお菓子がありますか。」
母親「一片ありますが、それを食べてはいけません。」
小供「お母さん違ふよ、それは坊がもう食べてしまつたのよ」

最も進歩せる

▲藤本藥學士發見

世に流布する毛はへぐすりは實に不完全なるの餘り藤本理氏數年間諸藥學博士と合議の上現世一の本液ピローゲンを發見せらる▲世の御婦人紳士等の難者凡そ毛根のあるべき部分に▲毛のなき方、又は、ぬけ毛を止め、薄毛を増し與に發毛する事を證明す早く御試しあれ

現世稀なる新奇藥の提供

●價特製二圓、大一圓、小六十錢　送費各四錢振替又は小かはせにて注文あれ

發賣元　東京市兩國横山町三丁目十五番地　賣藥問屋　玉置文次郎
電話浪花五一〇、一五四二　振替東京四五一四

愛圖婦人廣告にて御申越しの方は送費無料

海水浴にも
溫泉にも
各家庭にも
各事務室にも
金線サイダーを必ず御用遊ばせ
飽まで衞生的に
金線サイダーは夏期飲料水の白眉たり

金婚正宗の名譽

愛飲家の福音

畏も御買上の榮を荷へり

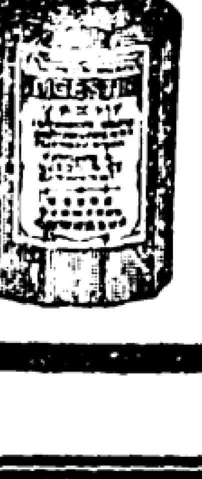
名譽附特撰金婚正宗は毫も防腐劑を含有せざる故に日常の飲として衞生唯一の好飲料なり

宴會用御用瓶詰あり
瓶詰箱入
各洋酒問屋にあり

發賣元
神田美土代町二丁目角
豐島屋本店
電話本局 一八八〇　三八八一

胃腸新藥
DIGESTIN
チゲスチン
日本歐米專賣特許
顧問　藥學博士 丹波敬三氏　理學博士 齋藤賢道氏

▲本品は植物性消化醱酵素にして左の四大特徴を有す(1)彼のヂアスターゼに優り單に澱粉質のみならず諸種の蛋白質殊に吾人の常用する牛乳をも完全に消化吸收するにあり(2)功果偉大にして用量尤も少なし(3)殆んど臭味なく婦人小兒と雖も容易に服用せらる(4)價格は比較的低廉なり



▲錠劑は卅錠入參拾錢、百錠入九拾錢
▲販賣所は各地有名藥店にあり（尙ほ詳細說明書は東京本町三丁目製造發賣元合資會社圖城商店へ宛御申込次第送呈す）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學博士 佐々木信綱先生選

應募和歌「里卯花」

天　麻布　浪子

つかれたる順禮の子の足どりや
　里のたそがれうの花のちる

（評）順禮の子を配合せる卯花にふさはしくてよし

地　尾張一宮町　土川保子

なにとなく卯の花垣に立ちよりぬ
　里のをちこち灯のともる時

（評）結句此のうたの生命といひつべし。

人　名古屋市東區板屋町五六　野村なか子

時鳥きゝにときつる乳母の里
　ところ／＼ににほふうのはな

（評）平淡にして佳し。

秀逸

○　岩代　爲田よしの子
風呂めせと隣をよはふ聲すなり卯の花白きたそがれの宿

○　横濱　鈴木まつ子
さわかしきちまたはなれて水清きさとのうの花今さかりなり

○　千葉　綿貫けい子
卯の花の亂れ咲く垣黄昏れて灯もるゝ故郷の家

○　三河　山内經子
薄月は丘をはなれて我里の卯の花垣に郭公なく

○　大阪　北林琴枝子
澄む月の涙か脊戸のうの花のほろ／＼散りてほとゝぎすなく

○　岡山　西村長子
友も又思ひいつらん去年の冬別れし里にさける卯の花

佳作

花うつぎかつらの里に咲けるはしづがさらせる布かとぞ見る　栃木　伊澤秀子
卯の花の白きゆうべを五月雨の青葉のつゆにそめむとぞふる　横濱　小笠原はる子
わくらはにみるもなつかし遊き旅にとしふる里の辻の卯の花　千葉　石原たみ子
わか宿のかき根のうつき咲きいてゝやみなき里となりにけるかな　廣島　不知道子
主もなき寵の寺の破れたる門をおほひて卯の花の咲く　甲府　樋口はくた子
山里の乳母の家なと尋ぬればかきれつゝきに卯の木花さく　丹後　吉村千代子
賤の女かさらせる布とおもひしはころもの里に咲けるうの花　岩手　渡邊豐惠子
星に出て月に歸れる小山田のほとりに白く卯月花さく　石巻　吉田とき子
時ならぬ雪とかはかり山里のしつか垣れに咲ける卯の花　兵庫　三畑たか子
都路の市にいてゝもしかすかにましろに清し里の卯の花　赤坂　清水まつ子
思はすもそゝろありきに卯の花のましろに咲ける里にいてけり　豐橋　市川みとり子
たそかれの里のわかれ路うつきさくかたにやとらむやみしなければ　牛込　杉中春子
夕つくよ光たそへて玉川の里のしろへとさける卯の花　備中　林秀子
烏羽玉のよめにもそれと見ゆるかな垣根のもとに咲けるうの花　芝　土師利根子
藁ぶきの小家中は杉垣のしけみにうもれ卯の花さかり　岩代　小川しん子
畑となる里の名主の屋敷跡参生ましりに匂ふうの花　岡山　森島古野子
時ならぬ雪やふれると山里の細道一里卯の花のさく　大阪　室谷ひさ子
卯の花のかけにつかれを忘れんとゆたかにゆめを結ふ里人　千葉　綿貫むら子
見渡せば蟬の羽衣更科の里は眞白に卯の花の咲く　廣島　重岡冬子
卯の花の匂ふ夕をあとにしていて行く心誰に告げなむ　相模　加藤李花子
人とはぬ山里なれとうのはなのさけるあたりはにきはひにけり　丹後　寺田とも子
ほとゝきすまつ月影ににほふなりゆきと見まかふ里のうの花　豐橋　平松いと子
卯の花たかさしにさして里乙女ひな歌たかく小麥かるなり　三河　山内經子
早苗とる少女のうたふ聲もしてうの花にほふ小山田の里　丹後　松浦珠美子
山里に今さかりなるうつき垣くはつみつきてしつもながめの　丹後　石田幸子

應募和歌「磯松」

宮内省御歌所主事 阪正臣先生選

一等（賞品贈呈）陸奥國八戸町泉山方　橋本保子

櫻かひちりしくいその松かけに
　浪の花さへよせてけるかな

（評）うつくしくいひ得られたり。

二等（賞品贈呈）麻布　浪子

出る舟は別れをしみ入る舟は
　見てぞよろこぶ磯の大松

（評）めづらしき趣向

二等（賞品贈呈）朝鮮大邱府慈惠病院　高芝とらを子

めかりする母をまちつゝ海士の子は
　落葉かくなり磯の松かげ

三等　赤坂表町　清水まつ子

うつせ貝拾ひし乙女かへりきぬ
　潮やみつらんいその松原

三等　京都市新門前　難波良久子

よる波を花とさかせて磯きはの
　松は千年をたちさかゆらむ

三等　牛込早稲田大隈邸内　長鹽錠子

海士の子の遊ひところとなりにけり
　いはほにねさす松の下蔭

佳作

いその山のまつにかゝれる夕月をみやこの友に一目見せはや　横濱　鈴木まつ子
磯邊なる松吹く風も長閑にて沖の汐路は凪靜なり　日本橋　松岡千代子
汐風にふかれたけはひくけれと磯の老松枝ふりそよき　茨城　大曾根みつ子
磯なれ松ふく風の音きゝなから春の一日たあそふたのしさ　名古屋　野村なか子
千代かけていく旅人の心たやとめてかしけるいその老松　北海道　五十嵐やす子
磯山の松かけに來て沖通ふ白帆見る時鷲のなく　豐後　春川雪子
船やとす岸邊の松の磯なれて見る目にあかぬけしきなるかな　神田　宮崎うら子
浪あらき磯へならすは船よせてあの松かけに一夜あかさん　同　伊藤みの子
打つ波のたまとくだけて散る磯の松にうそふく須磨の浦風　千葉　石原たみ子
荒波はいかによすとも磯邊なる岩根の動くへしやは　遠江　相羽とし子
音すごき荒磯の邊に年をへていつもゆかしき松の一本　讀人不知
花にみなうかるゝ春もしら波の荒き磯邊に誰をまつかせ　日向　岩手房子
ふくかせにうきよのちりをはらひつゝ音さへきよきいそのまつはら　岡山　岡田芳子
うちよせてくたくる波の白玉は松にさく花ちると見えつゝ　周防　藤井かめ子
見かへればいつしか宿は松かげにかくれて磯によするさゝなみ　横濱　小笠原初子
あら浪のよせては返る磯きはにおひたる松は幾代へにけん　丹後　吉村千代子
うみつらの松原今朝は風もなし蜑の小唄の聲のみのして　兵庫　三畑たか子
ふく風にことのおとする磯馴松よせては返るなみにあはせて　廣島　重岡冬子
いやましにうるはしきかな水にうつる松の緑の波にゆられて　岡山　西村清子
波の音にしらへあはせて春秋のいろにうつらぬ磯の老松　豐橋　平松いと子
灘すみに夙かきしことく見ゆるかな朧月夜の磯の松原　三河　山内經子
夕つく日波間におちてみか月のかけそかゝれる磯の松原　同　同人
磯立のいその清水にかけ見えてみとりいやます御手植の松　丹後　松浦珠美子
おき見れはなみに白雲かゝりけりふきはらなむ磯のまつかせ　岡山　西村長子
磯山の松吹くかせの末みれはすなとる海士の小舟たたよふ　千葉　綿貫むら子

●千葉　土川倭文子様　賞品御送附致したし御住所御通知下さいませ。

▲愛國文苑▼

⊙和歌　坂正臣先生選
閑居立秋（八月廿五日締切）野草花（八月廿五日締切）

⊙和歌　佐々木信綱先生選
煎茶（九月廿五日〆切）風前萩（九月廿五日〆切）

⊙俳句　内藤鳴雪先生選
盂蘭盆、夕顔花（八月十五日〆切）
青田、
初秋、鯛、桐一葉（八月廿五日〆切）

▲愛國文苑▼

日本橋區元大阪町八番地

高木與兵衛

發賣元
東京淺草區茅町淺草橋際
阿部彦四郎商店
電長下一九二二・三二四八
振替口座二三六三番

會員募集

●入會すれば誰でも歌よみになれます
●會員には無料で點削する設備有ります
●初學者には親切丁寧に敎授致します
●申込み次第規則書送呈す

東京麹町區平河町五丁目十二番地
大日本歌道奬勵會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

鳴雪先生選

天

白扇に書くや風月無盡藏　福井縣丹生郡朝日村　山田豊子

地

雨乞や暑さに被る簑と笠　千葉縣千葉郡白井村　石原たみ子

人

土用とて干す腹もなく年老いぬ　三重縣志摩郡鳥羽町　梅村喜久子

佳作

螢見や宇治の小舟の欧袋　三河　岡部廣子
蝙蝠や湯氣ほの白き御風呂　同人
軍扇に招く千軍萬馬哉　廣島　不知道子
行水の盥にうつる夕日哉　同人
亡き友の奥津城詣蓮も咲く　同人
雨乞の雨の中なり鍬と鋤　茨城　大曾根みつ子
水上は井の頭とや舞ふ螢　千葉　五十嵐節子
宵々や藪に群がる蚊喰鳥　同人
行水や清き吹井と相對し　同人
中々に仇花も好し爪畑　同人
夏痩せの人皆鶴に似たる哉　福井　山田豊子
貧乏のさはさりながら土用ぼし　神田　伊藤みの子
ほし物や人騒がせの土用雨　同人
寺に來て法話聽きけり蓮の雨　同人
雷はげし敷石叩くざんざ雨　同人
投活けの蓮や寫經の机　同人
白蓮の薫り身にしむ佛間哉　廣島　美惠子
蝙蝠や三日の月さす古城跡　千葉　石原たみ子
蟲干しにつるや家傳の藥草　同　最山みよ子
賀茂川の水の響ひや夏まつり　福井　石黒貞子
雷雨すぐあとたゞよふ浮藻哉　美濃　安井澤子
朝顏の鉢を洗へば夕立す　同人
夏痩をする身は深く帳たれて　同人
人皆も聞えぬほどの雷雨哉　日本橋　成島ゆかり子
夕風に吹き飛ばされし螢かな　同人
雨乞や龍頭が池の捨舞　兵庫　三畑たか子
蝙蝠や二日の空に月細し　同人
草むらを涼しく照らす螢かな　信州　三澤ときお子
給扇や東近江の夕景色　橫濱　安藤とみ子
夕かほの花もおぼろや湯氣の下　山城　古川よれ子
夏まつり歐州式の化粧かな　同人
夏やせを美しと見る男かな　豐橋　市川みどり子
蝙蝠の飛び去る方や灯ともして　千葉　綿貫むら子
襖かざす習も古き祭かな　同　綿貫けい子
蝙蝠や宿の外れの大欅　同人
蟲干や隣家の妻が垣間より　同人
遠雷や夜もすがらなる犬の聲　同人
笛を吹く若き御僧や夏痩せて　同人
滿舟の客蓮の葉をかざしける　同人
廢坑に町のさびれや蚊喰鳥　播摩　長田あき子
かくて騒音なつかし土用干　仙臺　武者波照子
雷鳴に蔀をおろす女哉　福島　長谷川吉野子
川越しに神樂聞ゆる祭かな　日本橋　成島百合子
蝙蝠や樓門朽ちし寺一字　栃木　芝野かつ子

●ウヰッチトンの猫

芳嶺

(二)お臺所

チックは漸次に身體も精神も疲れ果てて、今は一歩も進む事が出來なくなりましたので、とある立派な家の戸口の所に腰を下し、つく〲と自分が生れた小さい村に歸りたいものだと考へて居りました。此時この家の料理人の女は、食事をして居りましたが、チックの姿を見て、

「其處で何をしてるんだ、餓鬼奴！。早く退きなさい、行かなけりや熱い湯をぶつかけてやるぞ、」

と、さも惡々しげに怒鳴りました。丁度この時、此の家の主人フイッツターレンは、晝飯を食べやうと、我家に歸つて來まして、戸口に居る穢らしい子僧を見て、

「コレ〲お前は此處で何をして居るのか。定めて働かずに食はうといふ怠け者であらうな。」

と、物靜かに尋ねますと、チックは、

「いゝえ、左樣ぢやありません、私は自分で出來る仕事さへあらば、働きたいので御座りまするが、この廣い倫敦で、知り人といふものは一人もなく、其上長らくの間、何も食べずに居るのでござります。」

と答へました。主人は此の話を聞いて、

「マア可愛想に、兎に角家に這入りなさい何か仕事を見つけてやらうから。」

と、云つてチックを連れて這入り、例の料理女を呼んで、チックに食事を與へる樣に言ひつけて、何かこの子に出來さうな容易い用事を爲る樣に申付けました。

チックはかくて情深い主人から救はれたのでありましたが、若しこの意地惡の女中さへ居なかつたら、此の家の世話になる事はチックの身に取つては、此の上もない仕合であつたでせうが、女中はいつもチックに、

「お前は妾の小使だよ、だからお前はなんでも妾の云ふ通りにしなければ不可ないよ。茫然してちや不可ないよ。火を燃しなさい、灰を掃除しなさい、皿を洗ひなさい、床に雜巾がけをしなさい、薪を持つておいで！マア何て怠け子僧だらう！。」

と、云つては、追ひ使ひ、時にはチックの横面を撲つたり、箒の柄で打擲したりするのでありました。

此の家のお孃さんにアリスといふのがありましたが、此の樣子を見て氣の毒に思ひ、この少年にもつと親切にしないと、お前に暇を出して了ふよ、と女中を叱りましたので、チックはお蔭で多少樂にはなりましたが、決してその心配がなくなつたと云ふ程では有りませんでした。

チックの寢室は外の人たちが寢た室とはズット離れた此の家の最上層でしたが、室といつても名ばかりで、床や壁には、一面に孔があつて、毎晩鼠が澤山出て來ては、チックを苦しめ、到底眠る事は出來ないのでした。

或日お客の一紳士の靴を磨いて置きますと、五錢の白銅を一つ呉れたのでありました。チックはこの錢で猫を一匹買はうと決心しました。其の翌朝女の子が猫を抱いて歩いて居るのに出逢ひましたので、チクッが申しまするには、

「その猫を五錢で賣てくれませんか。」

すると娘は直ぐ承知して、

「よう御座います、賣つて上げませう。此猫はよく鼠を捕りますよ。」

と、云つてチックに猫を渡しました。チックはこの猫を自分の部屋に隱して置き、毎日自分の食物の一部を割いて養つて居りました。これが爲に忽ちの間に鼠は一匹も居ない樣になり、チックは樂々と寢る事が出來る樣になりましたが、まだ〲此の猫がチックの身に取つて大變な出世をさせる事となるのであります。（つゞく）

熱い〲とおつしやる時の外出には前年來好評の

アンダーベルト

汗除帶

最も暑中御進物用に適品

直段壹枚七拾五錢ヨリ各種有之候

今ハヤリの子供帽子で氣の利いたお安いものはと問ふ人あらば關口洋品店製品と御答する

東京販賣所　三越　白木屋　松屋　松坂屋

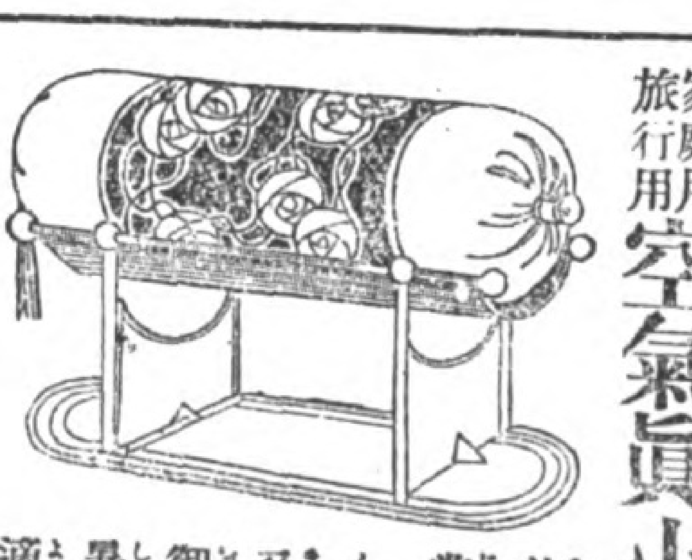
直輸製造元　關口洋品店　東京新橋　電新二九〇二番　振替八〇九三番

横濱　鶴屋呉服店　相模屋

名古屋　伊藤呉服店

大阪　三越　高島屋

家庭用旅行用 空氣眞小枕



其の具合非常によろしく避暑旅行又は御婚禮御祝物及び暑中進物に適品

一組金壹圓三十錢

空氣眞小枕　金五十五錢

ニッケル製折疊枕臺　金七十五錢

ソバカスクリーム

ステールマン會社のフレックルクリームは御婦人方へソバカスの汚點を除く確實なクリームとして常に信用を第一に發賣して居ります此クリームの御使用法は極めて容易で御臥床の時に汚點の部分へ能く塗り込み御起床を待つて石鹼で洗ひ落すのでございます

壹個壹圓廿五錢

附屬洗面用石鹼 コンプレッキシヨン 壹個 七十五錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

北白川宮殿下

(禁轉載)

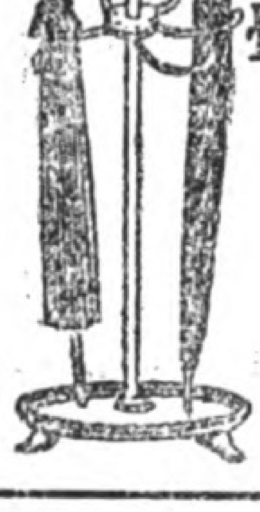
桃川如燕謹述

三、將軍水戸に隱退す

輪王寺宮樣は畏くも徳川將軍の爲めに總督宮殿下に御哀願遊ばされんとの思召にて、五人の僧侶を御伴に召連れられ目立たぬやうな御扮裝にて、日に歩み夜に泊り漸くの事にて駿府城へとお着に相成りました、唯今の靜岡でございます。

此時朝廷に於かせられましては徳川家征討の爲め有栖川宮殿下を大總督として東海道から兵を進められ、今や駿府城に御滯陣でございます、府内二丸内左手には大村益次郎の指揮する二大隊餘・右手には大監察中村半次郎の指揮する二大隊餘・嚴重に守備致し居ります、官軍はマンテル、ヅボンの服裝、錦の布を肩に付けて居られる、此時宮殿下の御供を致した上野覺王院大僧正は城門を守る衞士の前へ進み『ア、申入るゝが、如何に此所へ御出になりしは、上野東叡山寛永寺御主輪王寺宮公現一品親王に渡たらせらる、大總督宮に御用あつて當地迄御上りあらせられた、宜しく御取次を願ふ』と申入れたので、さても上野の宮樣にてはせしかと大村益次郎、中村半次郎等俄かに部下に訓令を下し、兵士を初め各將校に至るまで、一同謹んで敬禮を致しました、其内御案内に連れて城内書院へ御通り遊ばされ、御着座に相成り、御同道の僧侶は次の間に差置かれ、茲で總督宮に御對面遊ばしましたが、まだ御幼年に似もやらずお聲も流暢に先づ總督宮殿下の御健康を御祝ひ遊ばされ、改めて申さるゝは『徳川家の罪御征討として御下向遊ばされしは誠に御尤千萬のこと、なれど徳川も十五代の間、無事に天下を治め十全の君を守護しまゐらせ、能く民を慈しみし功勞にめでさせられ、將軍も既に隱退恭順の意を示し候上は何卒寛大の御處置を願はしう、嘆願の爲め罷越し候』と懇々と慶喜公の爲め徳川家の爲めに御哀願遊ばしたので有栖川宮殿下にも徳川家を不憫に思召された御樣子、いづれ何分の沙汰に及ぶであらうとの御挨拶、然らば何分宜しく御承引を願ふと、是れにて御訣を告げさせられ、其儘江戸表へ御歸りに相成りましたが、折角府中迄御出でになり御嘆願になりし甲斐もなく上野に彰義隊集合し其他幕府の家來達が各所に隊を組んで徳川家恢復を圖るなど不穩の趣天朝に達し、遂に輪王寺宮殿下の御願意も御採用なり難く、官軍は江戸へ向つて進發され、箱根を越え、旗鼓堂々として品川より江戸に入り、遂に江戸城引渡しとなり、時は慶應の四年四月の十一日慶喜公は水戸表へ御出立、何しろ三百年も江戸を治められた將軍家が、いよ〳〵江戸御立退と云ふので、いづれもお名殘りを惜むは無理ならず、覺王院大僧正は輪王寺宮樣御名代として、山下まで見送られた、慶喜公も流石に御名殘を惜まれて『僧都、是れまで御配慮に預かり滿足に思ふ、謹愼遠慮中なれば宮へも最早拜謁致さねば、貴僧より宮へ好しなに御披露に預りたい』覺王院僧正も眼をしばたき『榮枯盛衰は世の習ひとは申しながら、御痛ましき今日の有樣、嘸かし宮にも御心を痛められん、宜しく拙僧より上申致すでござらう、此上共御身體大切に又逢ふ春をお待ち遊ばさるゝやう存じまする』慶喜其一言、『予も滿足致した』流石の覺王院も人に衣の袖を顏に押當て、涙を隱したのは人情でございます、やがて慶喜公は御乘物へ乘らせられ、警護の者澤山付いて水戸街道へ向つて出立に相成りました、上野から吾妻橋、小梅、引船通り、新宿の渡場迄まるで、人を以て埋まりました、又江戸町年寄、名主、町役人などは皆足袋跣で出まして、往來へ坐つて別れを惜みました、此方は上野山中に集りました彰義隊の面々は池田大隅守、竹中丹後守を始めとして黑門口を大手と定め、榊原の神木隊九十六人、隊長が酒井良助、副長には布目又兵衞、石井八彌、井上文治、世話掛には小田五郎助、大久保藤十郎又中堂前西手には會津藩士の臥龍隊々長には内藤兵部、柳田小六郎、中堂前東の方には順忠隊々長細倉賢左衞門、本坊前には滿字隊々長久世隱岐守、山王臺は彰義隊の中堅池田大隅守、春日三右衞門、近藤武雄、伴紋五郎、小田井藏太、管沼三五郎、川上善藏、杉山佐左衞門、新居庄太郎、大塚覺之進、大久保權右衞門、春日半五郎、榊原健吉、中條金之助、天野八郎の人々、寒松院詰には秋本孝之進、丸毛靱負、覺王院詰には加藤大五郎、高橋賢太郎、小川良八郎、天王寺詰には齋藤藏吉、今井貞次郎、中川喜代之丞、又一番隊より十八番隊、別に遊軍隊、合して八百三十六人とは云ふものゝ、實は二千七百餘人、徳川宗廟保護を名として上野へ立籠り、總督宮より屢々お使者を以て解散を命ぜられまするけれども一向に應じませぬので、今は是非なく官軍に於ては彰義隊打拂ひと云ふことに御評議が極まり、大村益次郎、中村半次郎の人々にて軍議を凝らし、愈東臺に於て官軍と彰義隊との大合戰、宮殿下には彈丸雨飛の間を落延びたまひ、遂に東北地方へお移り遊ばすの御話、追々と辯じまする。

(つゞく)

陸海軍諸官省御用達
銅製改良風呂釜
湯壓用改良釜
桶製箱風呂
桶製桶風呂
實用輕便傘園臺
此傘臺は鐵製にしてネジ留に仕込あれば取はづし自在雨傘洋傘ステッキ置晴雨共使用出來極便利なり


日本一 據風呂
日本橋通油町 電浪一四六二
製造發賣元 石川商店

京染悉皆
地方取引輕便廉價
營業案内送呈
美術模樣入各種染
本檳榔子黑染
友禪染
小紋染
堅牢色染
各種旗染
古染物替悉皆
京都油小路通五條上ル
野村萬次郎商店
振替口座大阪九四八六
染物は京染に限り升

小兒に宇津の救命丸
小兒虫氣一切の良藥
下野宇津權右衞門製
小兒宇津救命丸
商標
王藥
定價 十錢 廿錢 三十錢 五十錢 一圓
本舖 下野國鹽谷郡高根澤 宇津本店
東京麹町區飯田町四ノ七 宇津出張所

わきが及皮膚病
最も完全なる治療法
夫れわきがなるものは腋下の分泌液より一種不快なる惡臭を發する病症なり凡そ人として此病有る時は全身常に惡臭を帶び殊に暖季より暑季に向ては惡臭一層甚だしく人をして近接に堪へざらしむる實に人間として恥づべき惡病なり又婦人の如きは外面如何に美なりと雖も此病有る時は人皆之をさけ應對談話するも快とせず故に良緣を妨ぐる等實に悲み憐むべき惡病なり然れども未だ是れらに確實なる良藥を認めず爲に當主其の患者に治療の目的を達せしめんと西川醫學士と共に多年研究苦心の後ち茲に一大良劑を發見し數多患者をして實見するに偉大なる効力を有し愈々確實なる一新藥となり依て同病者に弘く傳へん爲め内務省に向て出願したるに當省に於ては本劑を試驗の上(第一六八二九號)を以て官許せるものなり藥名「清腋散」と名く同病者は輕重に拘らず本劑にて完全なる治療をせらるべし又本劑はたむし、水むし、いんきん等の皮膚病は如何なる痼疾と雖も速に治療す。
藥價五十錢、一圓、二圓、送料八錢
本舖へ代金を添へ御註文なれば直に送藥す
藥劑本舖 東京神田錦町三丁目三 中村寶珠堂藥局

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鯉の裁判

(五)　細川風谷講演

此態を見て清兵衛、人間の量見是程までに違ふものかと驚いて居ります。

久『コー清兵衛さん、芽出度時には芽出度事があるもんだ、鯉は出世魚だ、之を俺が料理して今言つた通り酒の燗をしてさうしてお前達夫婦を呼ぶからクヨ〳〵しねへで今日一日骨休みをするが宜いせ　清『ソロ〳〵出掛やうか　久『まだそんな事を言てるのか、マア待つて云ふ事よ』

料理自慢の久五郎宅へ歸つて大肌脱になつて求めた鯉を俎の上に載せ、庖丁を持て鯉の腹に充てゝスーッと引くと何か當りました、膾でも切つてはならんと庖丁を傍に置き、手を突込でソット引出す掌に重みの來たのは不思議、ハテナと思ひ乍ら左の手に之を移し右の手に柄杓を取つて水を掛けて見ると是は抑も如何に山吹色、數を勘定して見ると十枚、包んである紙を開いて見ると暖氣ながら確に、讀るゝ清兵衛殿　久『不思議〳〵、正直の頭に神宿る、天が悉皆照覽ましましアがつたナ、之を見たら清兵衛定めし喜ぶ事であらう』と思ひ乍ら　久『オイ清兵衛さん、お前が落した金と云ふのは何枚だい　清『成だけそんな事を言はないで貰ひたいんだ。ソロ〳〵出掛やうか　久『まア待て云ふんだ、お前に見せる物があるから』と無理遣りに清兵衛を呼び、掌に載けた十枚の小判　久『一枚、二枚、三枚、四枚、五枚、六枚、七枚、八枚、九枚、十枚、サア見なせへ、清兵衛殿：：何うでへ　清『アッ、お前が盗んだのだ　久『串戯ちやアいけないよ、俺ア近江の湖水へ潜つてお前の金なんざ盗みやアしねへ、清兵衛さん斯う〳〵言ふ譯で鯉の腹から今出て來た、好く俺の今言ふ事を聽きなよ、お前さんは此金の爲めに死ぬの生るの突落せのつて騒いだが、此金が出さへすりア死ぬにも及ぶめへ突落して貰ふにも及ぶめへ、サア之から此金を腹巻に確かりと納めて逆さになつても落ちねへやうにして、今も言ふ通り俺が鯉を料理して酒の燗を付けるから、緩くり今日一日休んで、明日からうんと稼ぎなせへよ、サア此金アお前の金だ』言はれて清兵衛暫くの間考へて居りましたが兩手を突き頭を下げ　清『之は恐れ入つた、私は今まで考へ違ひをして居たよ、人間は何でも稼ぎさへすれば宜いと思つて居たが全く量見違ひ、之から心を入替へてお前のやうに朝から晩まで酒を飲み、金を使つて惰けて暮らすから是迄の量見違ひは友達甲斐に堪忍してお呉れ　久『オイ金が出たつて變になつちやアいかねへせ、サア早く：：之はお前の金だから早く收ひなよ、　清『之は私の金ではない　久『何を言てやアがるんだ、お前の金でなけりやア誰の金だ　清『之は天からお前が授かる金　久『馬鹿な事を言ちやアいかねへ、手前の金ぢやアねへか此金は：：　清『私は三年の間寢る目も寢ずに稼いだ金を近江の湖水へ落とす運の人、お前さんは三年の間惰けて錢を使つて暮らしても一分で鯉を買へば腹から十兩の金を天から授かる人、運が違ふ、金は無ければ宜い物だが有れば敵になるのだ　久『眞似をしちやアいかねへよ、之ア手前の金ぢやアねへか、

清『イ、エ私の金ではない　久『ヤイ串戯た事を言ふねへ、先刻から好い氣になつて聽てりやア何を言やアがるんだい、幾ら貧乏だつて久五郎は一分で鯉を買つたが腹の中の十兩は買はねへんだい、之ア手前の金だ　清『憚りながら今迄の清兵衛は吝嗇清兵衛だが、斯うなつた清兵衛只の清兵衛と、清兵衛が違ふんだ、之アお前の金だ　久『何を吐言やアがるんだい』と喧嘩が初まつた、サア大變、女房達も飛出して來て互に亭主の手助けをする、近所の者總出となつて　甲『ナンでげすえ、　乙『仲の好い奴が喧嘩アして居ますせ、　丙『コレ〳〵靜かにしろッて云ふ事よ：：俺の頭ア打ちやアいかねへ何うしたんだ：：フム：：フーム：：フム：：フーム成程道理だ　久『オイ先方ばかり聽いちやア困らア、斯う〳〵して斯う言ふ譯だ　丙『道理だ：：こいつは兩方共道理だ、可怪な奴があるものだナア、世智辛へ世の中に金が要らねへッて喧嘩アして居やアがる、ナニ、そんな要らねへ金があるなら町内で預つても宜い、いけないよ、町内で飲で仕舞つても宜い、いけない〳〵、面倒臭いから一層私が貰つて仕舞ふ、段々づるい奴が出て來ちやあ困るよ、家主ア呼べ家主ア：：』家主は家主だけの量見がある　家『近頃京都に所司代として板倉勝重と云ふお方が來て居られる、此お方の處へ持出せば好い調べもして下さるだらうて、失禮乍ら板倉様の技倆を量る事も出來る』と云ふので茲で願ひ人久五郎、相手方清兵衛として京都所司代役所へ願ひ出ました。(つゞく)

婦人發明家

東京市本郷區東片町十五市原てふ子(三十)は舊紐育生命保險兵庫代理店員市原六三郎氏の妻女なるが同女は性來頭髪の赤縮れなるを太く苦にし種々なる藥劑方法を用ゐ是が矯正に務めたるも一も滿足するものなかりき然るに偶或る樹脂より一種の藥劑を發見し純粹の椿油を加へ更に香料を入て一種の頭髪香油を作り之れを試みたるに赤き頭髪は黑色と變じ光澤を増し縮れは直りて眞の美髪となりたるより同女は殊勝にも一日も早く之を世に公にして心を苦しめつゝある諸嬢を救ふも亦世に處するの道ならめとて直に良人に謀りエンゼル香油と命名し專賣特許一五五六七の特許を得たるが是我國に於る專賣特許の嚆矢なり茲に於て同女は尚衛生試驗所長田原藥學博士に分析を乞ひたるに證明を與へられ後に樞密顧問官子爵清浦奎吾、工業試驗所長工學博士高山甚太郎、同工學博士三山喜三郎、美術學校教授千頭庸哉氏等の有効證明を得て其確實なるを立證し十分なる研究と注意を以て先頃之を發表し頗る醜毛者の賞讃を博しつゝあり詳細を知らんとするものは返信料を添東京本郷東片町十五エンゼル商會に申込めば直に其消息を知るを得べし

巴里の生粋を直輸せる
新着各種リボン
高尚なる寶石入束髪ぐし
目下流行界に持囃される
輕く工合よき前髪シン
其外御婚禮用鼈甲櫛笄簪及小間物流行品一切尚御便利の爲御持古しの小間物御交換仕候

鼈甲萬小間物商
東京神田須田町
三井屋商店
電話本局二〇七六番
振替口座二八一番
新橋、博品館内支店、神田、東明館内支店

名和式テンピ

嘗つて婦人世界誌上に於て弦齋夫人の料理中其の効用を稱せられたる和洋兼用テンピなり
定價　大二圓七十錢　中二圓廿錢　小一圓七十錢
說明書及商品目錄御申越次第送呈仕候
東京日本橋區蠣殼町二ノ十五
名和商店
電話浪一一七七番
振替一〇二五四番
支店　神田和泉橋通り松永町十八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理いろ〜

▲鱧のおろし羹　魚十切を煮笊にならべ置き、煮立ちたる湯を上よりかけ、水氣をしぼり煮汁二合、砂糖茶のみに一杯、醤油四勺入れ十五分より二十分間煮て（魚につやの出るまで）笊に上げ、殘りのつゆに醤油二勺、煮汁一合五勺を加へ、煮立ちたる所へ、おろし（大根）を入れ、直に下して一寸かきまぜ、魚の上に充分にかける。おろしは中位の大根一本おろせばよし。

▲鱧のきみあん　鱧の切身に、鹽をして置く事十五分、皮めを上にして、切身と同大位の竹の皮にのせ、蒸す事十五分、器に盛りきみあんをかけて用ゆ。

○きみあん拵方　十人前に二合の煮汁、玉子の黄身三個、鹽二匁、砂糖中勺、葛茶碗に七分を二倍の水にて溶きまでよはき火にかけ、休みなしにかきまぜ、煮立ち際におろしてさめる迄靜かにかきまはす。

▲鯰のちくも羹　十人前として先きに牛蒡小十本をさゝがし牛蒡にし、水に漬け置き洗ひて、湯でる事十五分間にして、湯煮湯をすて、水を入れしぼり鍋の底へ敷き、鯰百五十目を皮目を上にしてならべ、煮汁一合五勺、砂糖茶碗に一杯、醤油四勺にして、おとし蓋をし煮る事四五分間四個の玉子をとき上にかける。

▲鯉の洗肉　鯉を三枚におろし、腹骨を去り、刺身の如く薄く切りて、冷水を入れたる丼の中に入れ、箸にてかきまはしながら四五回水を替へ、ちりちりに縮れたらば、目笊に上げ、水氣を去りて程よく皿に盛り、小皿に晒葱と芥子酢味噌を添へて出す晒葱とは、葱の白き部分のみを取り、皮をむき、直に水洗ひをし、小口より成るべく薄く細かに刻み、布巾に包み、水中にてふり動かしながら晒し上げ、水氣をかたくしぼれば眞白き葱となる。

○○○○芥子味噌とは灰汁ぬき芥子を味噌にすりまぜ、それより砂糖と酢とを加へて裏漉しをし、程よくゆるめて味の加減を試み、再び裏漉しして用ゆ。

其他の魚の洗肉も推して應用出來べし。

▲おろしあへ　十人に大の大根一本、皮をむきおろし水にてさらし（味噌漉に入れて上より水をかける）程よくしぼり、大皿に入れ置きひれ生姜をみじんに切り、一寸水につけ、しぼりて大根に混ぜ、隠元豆の左右を切捨て、煮立たる湯の中に重曹を少少入れ、十分間にてきあげにし、鹽酢に一寸漬け、直にしぼり細く切り、笊へ入れ鹽をかけまはしながら、上より水を少々づゝかけ、ねばりを取り、大根にまぜて（外の魚を入るゝ時は鯵・鯖等五分位に切り鹽をし酢に一寸漬け用ゆ。甘酢をかけ用ゆ。（青みにはいんげんのかはりに胡瓜、白瓜など小口に切り一寸鹽もみして用ひてよし。）

凱旋サイダー

●日本體育會體操學校女子部の生徒募集

麹町區飯田町一丁目なる同校に於ては今回左の如く生徒募集中につき志願者は至急申込むべしと。

一、高等科（中等科教員養成）　五十名
一、普通科（小學科教員養成）　五十名
卒業生は諸府縣に於て小學校教員無試驗檢定の特權あり
一、入學願書　八月三十一日限り本部に差出べし
一、入學資格　高等科は高等女學校第三學年修了の者及小學校本科正教員免許狀所有者は無試驗。普通科は高等小學校卒業生は無試驗
一、入學期日　九月三日午後二時
一、入學試驗　九月二日午後五時より施行し科目は國語算術とす
一、規則書入用者は郵券二錢を送れ

▲汗除け帶アンダーベルト　夏は人の排泄物中に汗と云ふ物が加りまして御召物をめちや〜にする事は有り勝ちのことであります襟や手首の汗は拭きとる事も容易でありますが始末のわるいのは腹脊の汗でありまして一寸人中で拭くと云ふことも不作法であるばかしでなく仕にくい事でありますがそれには新橋の關口洋品店で出來るアンダーベルトと云ふのを御用ひになるがいゝ此店は永らく貴婦人専門に御用を達して居りますから貴婦人の御嗜好に付ては常に注意が屆て居ります又賣品の撰定に重きを置く三越を始め三府第一流の呉服店で取次販賣すると云ふ。

嫁入道具
宮崎タンス
京都堺町夷川角
電話一八二〇番

創立　明治九年
資本金　五百萬圓
積立金　參百四拾萬圓
東京市日本橋區小舟町
株式會社　第三銀行
電話浪花　四四二　四五一　四五六〇　四五六一
監督　安田善三郎
頭取　安田善四郎
營業部長　清水虎吉

▲貴婦人達はナゼ美しいでせう!!!
▲其れはこの様にしてみがき立てるからであります

美顏と化粧法

定價送料共金卅七錢切手代用は金四十錢
目次の大略▲色白くなる方法▲赤き顏を櫻色にする方法▲シワのよらぬ方法▲キメを細かにツヤを出す方法▲日にやけるを防ぐ方法▲歯を白くする方法▲毛のぬけるを止める方法▲髪の毛を黒くする方法▲手の色を白くする方法▲毛をのばしつやを出す方法▲ふけを去る方法▲ちゞれ毛くせ毛赤毛を直す方法▲あるべき所に毛なきを生ずる方法▲やせる法ふとる法▲鼻を高くする方法▲聲をよくする方法▲入浴の方法▲化粧品の選び方▲おしろいのつけ方▲衣服の模樣と縞柄▲衣服の縫ひ方▲衣服の着方
此外いろ〜の事が書いてありますが皆どなたにもすぐ出來る事ばかりで其効果も面白い程あらはれます。私方へ二錢切手十五枚又は一錢五厘切手廿枚御申越下されば千部限特別に御分ち申上げませう
本書著者　東京神田錦町三ノ二　高柳孝子

色白くなる

色黒き方、青き方、赤すぎる顏の御方は郵便切手二錢封入御手紙下さい、必ず色白く美しくなるよい藥を御知らせ致します、わけて日に燒けて黒くなつたなどはすぐ白くなります。皆様に御實驗を願ひました所澤山の御禮狀をいたゞいて居ります
東京神田錦町三の二　高柳こう子

凱旋サイダー

●子供の出來ない人に

婦人病を病む人と病まれる人の難義を救ふ何うして難義を救ふのか男女にかゝはらず一度尋ねて御覽なさい此の事に就きましては私迄三代も研究して居りますが御遠方の御方や御出の出來ない御方ははがきにて子供は何うすれば出來るのかと書いて東京市本所區横田友治として出して御覽なさい

さうすれば婦人病の治る事と子供の出來る譯を公益の爲めに無料にて詳しく御知らせ致します、此の様な事を申したら御疑ひもありましやうが、何せよはがき代ですから聞くは一時、聞かぬは末代も御出になる御方は横網町二の十八石原電車停留所前です。

すいなゆかた地
めりんす友仙
暑中御進物色々
東京人形町通よし町
赤のれん
おむなや本店
電話濱四三四五番

愛國婦人會指定
愛國帶　一筋貳圓拾錢
本品の特色
價ハ廉ニシテ而モ高尚優美
地質ハ綿七々子九尺幅二丈一尺ヅカイ更紗形本染

愛國婦人發行所編
女德論叢　四六版百五十頁郵税共一部貳拾錢
本書は大隈伯爵元良博士其他當代名士才媛の卓說を網羅せり

日本女子商業學校學監嘉悦孝子案
最新實用　家計簿　定價五十錢　送料八錢
一ヶ年一冊の豫定但何月からでもつけられる組織です
一冊で賄帳●元帳●日記帳●金錢出納帳の四冊を兼用が出來ます一冊で何冊の兼用が出來費用と手數を省き一目で家事經濟の模樣が分ります
如斯完全なる家計簿他にありや

橫地三園居士著
書道秘訣　合本筆法指南
改正　價參拾五錢　送料八錢
書道の大家三園居士が千年の久しき絶て世人の聞知せざりし一種特得の運筆を圖解を擧げて說明したるものにて此の筆法を熟知せば數月を出でずして脫俗優美の文字を書き得らるゝの域に達せらるべし此の筆法は古名人が秘訣として窃に門人に授けし妙法たりし者なり●三園居士揮毫の額面及半折何れとも御希望の方一葉を添付すべし
東京市麹町區飯田町
愛國婦人發行所
電話番町五一二〇
振替東京一一三八一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醬油

於日英博覽會
賜名譽大賞牌

到る所の酒醬油店に販賣す

カギダイ

下總銚子港
釀造元 鶴屋吉兵衛

苟も美容たらんと欲する諸姉は先づ
ラーロラ
BEETHAM'S
La-rola
を愛用せざるべからず

此化粧用美容劑は日光、風、硬水に堪へる様皮膚を保ち日焦アセモ、アレ赤顔ソバカス等を防ぐに尤も妙にして且皮膚を柔かく滑かに色白く若々しくす四季を通じて用ふれば常に美しき皮膚を保ち得らるべし

M. BEETHAM AND SON.
CHELTENHAM, ENGLAND.

製造所 英國セルテンハム、エム、ビーサム、エンド、サン商會

各地著名の化粧品店にて賣捌く

醫院案内

四谷區

小兒科醫院

本院 四谷區 西信濃町 十四番地（電話番町八七四）
宅診午前中 入院應需
院長 醫學士 川村正治
副院長 醫學士 川村信一
分院 芝區西久保巴町四十五番地（電話芝二〇八六）
宅診自午後二時

神田區

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診後需應
林、蜂間、兩副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

（電話本）八八八八病院用 八九九八私宅用
東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近
院長 醫學士 高田畊安

南湖院

神奈川縣高座郡茅ヶ崎海濱從停車場半里
電、チガサキ二番
河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午后、入院 診后應需

内科一般

殊に（肋膜炎、腎臟炎、胃、腸、肝臟病）
醫學士 村松平次郎
神田區表神保町六（電本一四五二番）

内科一般

東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七拾番

齒科診療

神田區淡路町二丁目七番地 岩崎邸坂下（電本四二六七）
本山幸三郎
分院 栃木縣足利町 電話（足利 三五六）

日本橋區

濱町病院

日本橋區濱町三丁目七番地
電話浪花一六〇番同長一六一番
產科 婦人科
院長醫學士 小林八十七
醫學士 大瀨貴明
醫學士 佐野綱次郎

内科一般特ニ（胃腸病 腎臟病）

宅診午前 往診午後
（入院隨時）
日本橋區松島町廿七番地
醫學士 竹村正
電話三七六六

京橋區

◎院長ドクトル木村順吉

次長醫學士福田康甫
婦人科產科
京橋卅間堀一丁目角
電京一六七〇番
木村病院

芝區

◎產科婦人科

芝明船町十九虎門外
電話芝二六四二番
櫻井克巳

齒科診療

每日自午前八時至午後五時（但シ十五日廿八日休診）
芝區烏森町一番地
石川齒科醫院
電話新橋一九二〇

婦人科產科

診察午後 入院隨意
醫學士 久保徳太郎
芝區愛宕下町四丁目西ノ一電話芝七三番

麹町區

内科診察

宅診午前及夜間九時迄 往診午後
麹町區四番町四番地（電話番町貳三八四）
醫學士 中山敏樹

產科婦人科小兒科

鷲山改姓
診察院長 女醫 吉岡彌生
時間醫員 每日八時より 每日三時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七

婦人科產科 榊病院

醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
醫學士 久保徳太郎 日曜水曜午後婦人科的外科
醫學士 田代謹二 火木土曜日午後泌尿器病及内科
醫學士 石塚保吉 水土曜日午後小兒科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療姙婦產婦ヲ取扱フ
麹町區三番町三三（電話番町三〇三三）

淺草區

内田病院

淺草新福井町二
事務用電話下谷七一八
病室用電話下谷四八三八
傳染病室落成に付隨時入院の需めに應ず
●小兒科專門
午後診察
院長醫學士 内田愼太郎
副院長擔任
副院長醫學士 瀧原五郎

本鄉區

…(診察時間)…
○產科、婦人科

入院應需
月、水、金午前 橋爪病院（浪花二六〇番）
（日本橋區龜島町一の廿九）
每日二時ヨリ五時迄 自宅（下谷二四八七）
本鄉區眞砂町十五番地
醫學士 橋爪哲造

赤坂區

腦神經精神病

東京赤坂 帝國腦病院改 青山腦病院
院長 ドクトル メヂチーネ 齋藤紀一
專門醫學士三名
在歐特長 田澤醫學士
電芝二七四五 電芝二六六五 電芝三四〇六

小兒科

赤坂區青山南町三丁目
醫學士 石塚保吉
電話芝三四七四番

小石川區

○婦人科○產科

飯田橋電車停留場脇
中島襄吉

◎產科、婦人科 ◎内科、小兒科

小石川西江戸川二六
電話番町（一四二六）
森種太郎

下谷區

產科 婦人科 天本醫院

下谷區仲徒町二丁目卅五番地
院長 醫學士 天本治
（入院隨意）
（電話下谷二六六九）

府下

腦神經精神病科

東京龜戸町電話本所二五五二
加命堂腦病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人畫報

八月一日發行　八月の卷　定價二十五錢　郵稅二錢五厘　六冊送料共一圓五十三錢　十二冊送料共二圓九十四錢

畫報要目

◎如何に鮮麗にして豐富なる！

▼河添柳　鏑木清方氏筆　三頁大三色版
▼賀陽宮二女王殿下（綠陰深き御庭前に於る）
◉竹田宮妃殿下
▼女學生のボートと水練
▼珍らしき八丈島のお嫁入
◉驢馬上の西郷侯爵令息令孃
◉名流婦人令孃
▼女流馬術家打毬
▼時代の髪かたち
◉令孃と小鳥
▼跡見女史叙勲
▼女學生の米販賣
▼プラットホームにて
▼露西亞の女學生
◉美容體育術
▲飛石づたひ
▲清き風冴たる音

見よ本誌の夏の裝を

讀物要目

◉常夏の花　三宅花圃、長谷川時雨、岡田八千代、野上彌生、尾島菊子
▼意味ある夏……三輪田元道
◉歴史と婦人……黒板博士
◉母親の見識……三宅博士
◉疳癖持の子供……岸邊福雄
▼巴里より……與謝野晶子
◉小說　或婦人に與ふる手紙……島崎藤村
◉手紙に表れた女
▼美容體育術・美容
▼上品な表情法……幾子
◉誤りた愛……中島德藏
▼海水浴……加藤博士
▼男まさりの女……春鈴
◉不景氣と女……嘉悅孝

◎如何に眞摯にして家庭的なる！

◉東京麴町區飯田町四ノ四　電話番町二三三九番　東京社　振替口座東京一一八一八（全國各地書店に在り）◉

無乳産婦の福音ラクダゴール

本器はベルツクマン博士に據りて報告せられたる無臭無味毫も副作用なく蛋白質及脂肪質の多量を含有する乳汁を汾秘せしむる新藥にして本邦にては「ドクトル千秋雄雌郎氏」に據りて數多の患者に使用せられ其の症に由りては服用の初日に於て其効能を發揮し他の場合にても七八日間連服せしむれば完全に奏効す

一日用量十五瓦にして百瓦入壹函參圓

（用法容易）ドクトル千秋の報告印刷物御要求に從ひ無代進呈

東京市日本橋區本石町三丁目
藥種問屋　㊅中村瀧次郎
振替貯金口座東京九四三番　電話本局一六七六九番・三五六九番

水晶おしろい

すきとうりたる水にて付るさ白くなる流行の薄化粧料にして目立ぬ故男子まも用ひられる

定價　五拾錢　貳拾五錢　拾五錢

本舗　東京　大和屋

暑中進物にも又御婦人の避暑に必要

◎新案登錄　都はり箱

都はり箱は體裁圖の如く中を仕切り其内に起伏伸縮自在なる金屬製の裄臺を取付け箱底より踏板の出る裝置にして又五色の絲は自動的に廻轉し、はさみ、こて、へら、二つ尺度、つま形、そで形、針、針差し、指貫に至る迄裁縫具が一切入れて有りますれば御婦人方の避暑旅行の御携帶に頗る便利で又御孃樣方の學校携帶家庭教育用として重寶なるが故畏も高貴のお方の御買上を賜りたれば各位幸に一個を購ひ膝下に置れん事を希ふ

定價
漆塗金蒔繪特製　金貳圓五十錢
同　上製　金貳圓
神代杉金文字入上　金壹圓五十錢
同　上　金壹圓
クロース洋本　金壹圓

郵稅市內無料外拾貳錢臺清朝樺四十錢代金引替十錢增し郵券一割增し

製造發賣元　東京市淺草區西三筋町四十三番地　振替東京第二一五七六番　安井都堂

賣捌　三越白木發明館博品館日本便達社其他文具店にあり

女學世界

婦人と保守性の美德……文學博士　芳賀矢一

●惡口と皮肉……紅暑
●俳諧袋廻し……松風女
●二通の手紙……若の花
夏季と胃腸病……井上友子
女一代の大業……大津見歐村
◉體育上より觀た婦人……永井道明
◉繪物語わか草草紙……太田三郎
▽假髮に現はれたる女……眞壁一郎
▽大酒な夫を感化した婦人……記者
▽一葉女史の日記に就て……半井桃水
◉新らしい女……內田魯庵
◉母の眞情……井深花子

本誌獨得　美麗口繪　濟新　豐富

▼八月號　正價廿錢　郵稅二錢
前金　郵稅共四冊七十五錢　八冊一圓四十五錢　十六冊分金三圓四十二錢

▽田舍住居の娘の日記……夕ほし
▽神經過敏は生命を削る……矢野とし子
▽書き榮えのある文章……宮田脩
◉水樓の曙・夢の華
◉簾の影から……田村俊子
◉エスキモー乙女物語……佐々木邦
◉鎌倉の避暑先より……白鷗鳥
●松風汐かせ……
●新婦の調度……
●看護婦……くれなゐ
常識教育新鷄衣……晴內侍
料理食品交肓手引……小泉迂外

乙女時代の思ひ出……伯爵母堂　後藤雪子

東京　博文館　本町

皮膚梅どくりん病わ生殖器諸病ぢ
東京淺草瓦町廿八　朝八時より九時迄　中央醫院

皮膚諸病　梅どく諸病　りん病消渇　ぢ　田蟲症等
血の道　子宮病　月やくとまりたる病　子なき婦人
にきび　色の黑き人
そばかす　あれ　生殖器諸病　神經衰弱症
遺精夢精　陰萎　早漏　發育不充分　記憶力減衰症
わきが

▲病狀を記し郵券四錢を送れば其病を速治する專門醫中央醫院長處方の特効新藥說明書を送る

東京淺草瓦町廿八　茅町電車停留附近　中央藥院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内大臣御書

濟生とは赤十字院長橋本子爵處方の救世丸宮内省侍醫岩佐男爵處方壯婦丸に宮中各親王殿下より賜はりたる御沙汰書に添えて更に渡邊宮内大臣より濟生の實を完ふすべしとの御趣旨を以て御下附されたるものなり兩劑の光榮と其確實なるを證するに餘あり

救世丸「錠劑」消化不良又は慢性胃腸病と雖も必ず全治す殊に諸結核病後の衰弱等其他滋養劑として特効あり

壯婦丸は婦人血の道月經不調、ヒステリー、氣鬱、めまい、動悸、逆上、産前産後等に最上の良藥にして又頭痛、不眠、便秘、神經衰弱等には男女共に偉効あり

○濟生瓶兩藥價試用十錢四日卅錢十日七十錢廿日一圓卅錢卅日一圓八拾錢

○會員の爲め愛國婦人發行所にて取次す

○本舗 東京深川公園 **福井堂** 電話本所五六六九 振替二三六六

○取次は本舗又は各特約店へ申込れたし

◎本劑は愛國婦人發行所に於て會員諸君には特に便宜を圖り一割引にて取扱可申候

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 **持阿彌**

婦人世界

八月一日發行 七卷九號 一冊 拾五錢 郵稅一錢五厘

◎**婦人は晝寢せよ**……田端腦病院長 後藤省吾君

▽夏休みと女學生……下田歌子

▽水いたづらをさせよ……岸邊福雄

▽齒ならびと愛嬌……志村誠麿

家庭小說 **子寶** 愈よ出て愈よ面白く大評判なり……村井弦齋

▽夏の病氣とその手當……樫田學士

▽女の長湯は大害あり……鷲山彌生

▽食物を腐らせぬ工夫……星常子

◎**赤道附近の珍料理** 南極探檢隊料理長 渡邊三郎

發行所 東京京橋南紺屋町 實業之日本社

最上醬油之元祖
上
開業貳百六拾八年
宮内省御用達
釀造元 下總銚子町 濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

最上醬油
發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衞門
品質優等ニシテ調理ニ適ス
釀造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衞

一時間八百枚の寫眞

撮った寫眞は繪葉書大の寫眞となりて出來上る
園遊會など多人數の集會には絕好の紀念なるべし

今回輪轉燒付機械到着仕候に付、撮った其場で、一時間八百枚の割にて目の廻るほど急速に調製可仕候、八月一日より御注文に應じ申候間御用命被下度奉願上候。

尙昨年より開始致し候一時間寫眞は、大に好評を博し居候外、陶器燒付寫眞、パノラミツク寫眞、天然色寫眞など、三越ならでは撮影致しかねべき特種の設備も御座候間、御愛顧のほど奉願上候。

東京駿河町
三越吳服店

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 **森村銀行**
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月 年五分
當座預金 百圓に付日步 七厘
特別當座預金 同日步 一錢一厘

二條公爵夫人題辭 喜悅孝子著
賜天覽 賜台覽
再版 **女四書評釋**
橋口五葉畫伯裝釘頗美本
上製 天地金帙入 定價壹圓
並製 函入 定價六十錢
東京麹町區土手三番町
日本女子商業學校出版部
電話番町二一二七
振替東京一七〇七七

▲愛讀者諸君へ警告

▲新聞の代金……ります。此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御送りになる……便貨もいりませんから御便利でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲郵便切手で御注文又は御送金の節は必らず……日の御參考に保存を願ひます。

▲愛國婦人發行所の振替口座番號は毎號新聞……東京一二八一番で……割増に願ひ上げます。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい。御轉居の節は、必らず新舊御住所御認めを願ひます。

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

神田三河町一ノ一九 博報堂
京橋區宗十郎町一七 正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱
京橋區南槇町七 大興社
京橋區南紺町一 一星社
神戸市元居留地仲町三八 東洋廣告取次會社
神田須田町廿七 金蘭社
京橋區廣告社

▲專賣特許
植木式完全消毒壜は
有栖川宮邸
竹田宮邸　御實用の榮を蒙り
▲專賣特許
植木式簡便哺乳器は
諸醫學博士の御信愛を受く
(御注意) 類似粗製品あり
「藥劑師植木雄飛造」の貼紙に御注意願上候

專賣特許
植木式簡易吸入器
(兼鼻スプレー及香水吹.旅行用至適)

◉「アルコール」の必要なく最便利且經濟的なり

正價 壹圓六拾錢

東京神田區表神保町一
哺乳器問屋 植木商店
電話本局三七五六
振替貯金六二九一

▲全國各地有名の藥店にありなき時は代金引替小包にて御送り申ます

皆様
今日もまた丈夫で元氣で心から愉快に「暮す様」
「ゼム」を今すぐ召上れ

到る所の賣藥化粧品店にあり

◉御婦人方の最も大切な髪にくせのある方やはらかでふくれない方、赤毛で困る方は此竹の露をお試し下さい。

此品は順天堂佐藤病院病理檢査員たる田中先生が或るやんごとなき方へ献上の目的で調製せられたものを今回發賣するのであるから有効無害は勿論ふけもとれつやが出て見違へる程綺麗な髮になります
定價一瓶金三十錢送料八錢半打以上は市内配達致し升地方は送料不要
●取次販賣希望の方は本舗へ御照會あれ
東京市本郷區東竹町二六 春霞堂
電話下谷二五二三番

八月の卷發行
定價 壹冊 六拾錢 貮冊前金 八拾錢 郵稅共 壹圓七拾 錢五厘 (郵稅八錢 郵稅壹錢 貳七 五拾 錢)

新婦人

油取附紙白粉添附
急務たる夏季肺病手當　醫學博士 原 北原東京 美容院長
夏季自宅美容法
癖毛縮毛を全癒した經驗　松下春子
八月の婦人好み　あふち子
女子大學評判記　宇宙兒
女の自覺病　朧君子
書道自宅獨習法　加藤しげ子
男に騙され易き女の缺點　澤田撫松
頭髮の福音エンゼル香油の效果　市原蝶子
浴衣がけ(石版極彩色油繪)　石川寅治筆
リボンの薰(コロタイプ極彩色入)
表紙川村清雄畫伯筆(蘇武の友)極彩色
鐵道沿線名勝案內
附錄電報賴信紙添
小說 崖くづれ 文藝協會女優林ちとせ孃作
寫眞版口畫は內藤千代子孃以下所謂新らしい女の肖像卅二葉名媛の手形は珍中の珍
卷末附錄 家庭日誌
八月分溫度表晴雨表獻立表來客控●九星舊曆添
新婦人見本 郵劵卅錢
賣捌所は全國著名の書林雜誌店
發行所 東京市本郷區龍岡町 振替東京三〇五八番 聚精堂 電話下谷一六七二番 電話下谷四〇七九番

最新刊

小說 肉彈孃
雲井白馬著
定價四十八錢 送料六
日露戰役ノケチン聯隊長を刺し大膽不敵肉躍り血湧く芳江孃血染めの八悲劇の幕!!
發行所 山陽書房 東京赤坂仲ノ町二十五番地

かやぶとん夜具
電車は駿河臺下東明館前にて御下車神田表神保町
矢田商店
電話本局二〇一八
市內無賃配達

美術新薪
半襟各種
本店 京都京極四条角
支店 京都四條御旅町
ゑり清
電上一九三〇

日本赤十字社病院御用達
蒸熱殺菌牛乳販賣所
本店 麹町區永田町二丁目
乳牛場 豊多摩郡千駄ヶ谷町
鈴木牛乳店
電話新橋一九九五
振替口座二四三四

一弊店の蒸汽殺菌牛乳は最良の牛乳を壜詰の儘一定の熱度と時間とを計りて殺菌したるものなれば滋養成分の完全なるは勿論消毒後開封せざるを以て黴菌等の浸入する事なく又長時間腐敗の憂なきは壜詰殺菌牛乳の一大特色なり

(毎月二回、一日十五日發行)
▲定價一部金三錢五厘(郵送料共)一ヶ月金七錢
▲廣告料一行金六十錢
●電話(番町一五二〇番 同一七四五番)
●振替口座東京第三八一番

發行人 八田一精
編輯兼印刷人 竹內貞三
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
印刷所 東京小石川區久堅町 博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人

△遙拜式執行　愛國婦人會は御大喪中日をトし弔意を表せんが爲め本會本部樓上に於て遙拜式擧行の筈なり

天皇崩御

天皇陛下今三十日午前零時四十三分崩御あらせらる

右宮内大臣内閣總理大臣連署にて告示せられたり

嗟乎明治四十五年七月三十日は如何なる凶日ぞ、天地暗澹として天日光なく、鳥獸飛んで鳴かず、四邊沈々萬籟寂として唯國民哀號の聲のみぞ四海に滿つ、噫已ぬる哉。

伏て惟るに

聖天子御諱は睦仁、孝明天皇の第二皇子にましまし、嘉永五年壬子九月二十二日御降誕、萬延元年六月十日儲君御治定、慶應三年正月九日未幼冲の御身を以て萬世一系の皇統を繼ぎ、九五の寶祚を踐ませ給ふ、頃しも幕府の末造、泰平三百年の夢破れて、内憂外患並び起り、國步艱難、當路の有司も非常の時局に臨みて倉皇爲す所を識らざるの時に方り、陛下躬を以て衆に先んじ、國是を天地神明に誓ひ、英斷よく百弊を打破し、王政復古の大偉業を奏し、先聖の餘烈を耀かし、内は立憲の基礎を定めて諸般の制度を創め、萬民保全の道を立て、外は泰西列强と相輯睦して梯航萬里、樽俎歡を聯ね給ひ、或は義に仗て隣邦を扶け、亦機に應じて雷霆の一震膺懲の典を正し給ふ、而して登極以來曆を重ねること四十有五、鴻猷の恢張、上下の和親二千五百有餘年を通じて未だ今日の如きはあらず、國民の悅服前古比なく億兆此皇と共に益國威の隆興を冀はざるは非ざりき。然るに宵衣肝食の御勞積みてか、三伏の盛暑に方り、さしも御强健なる玉體も二豎の犯し奉るありて、御不豫に渡らせらるゝの報、一度雲外に漏るゝや、内外を擧げて驚心駭懼措く能はず、六千萬の赤子亦咸心を一にし赤誠を盡し御平癒を祈り奉る。

今や、噫已ぬる哉、上親貴の御熱誠なる御看護も、下杏林の名手が靑囊の秘藥も、億兆臣子が連日連夜の血願も圖に其効無く、忽焉として明治天皇陛下崩御の報到る、熱き禱、懇ろの祈、今は將何かあらん、餘りの事に神戰き膽潰れ爲す所を知らず、只血泪の漣洏として迸しり出づるあるのみ、泣いて訴ふ、噫、天道は是乎非乎、悲嘆の極、哀愁の致、千古盡ざるの恨如何なる文辭を以てか此の記事を誌し奉らんや、筆を投じて慟哭するのみ、噫

本號締切後
大行天皇御崩御の御事あり止む事を得ず玆に特別附錄を添付して哀悼の意を表し奉る

△會長の弔詞奉呈　愛國婦人會長阿部伯爵夫人は本日午後參内し、全國會員を代表して御弔詞を申上げられたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△會長再度の參內 愛國婦人會長阿部伯爵夫人は去二十九日午前十時本會を代表して再び參內せられ 皇后陛下の御機嫌を奉伺されたり。

新帝御踐祚

踐祚に付き三十日午前一時・賢所に祭典を行はしめ皇靈殿神殿に奉告せしめられ、同時宮中に於て劍璽渡御の儀を行はせられたり。(七月三十日官報號外)

(附記)・明治天皇陛下崩御あらせられたるにより皇室典範第十條の明文により崩御と同時に 皇嗣 嘉仁親王殿下 皇位を御繼承あらせられ、こゝに御踐祚式に引續き劍璽渡御式を執行はしめられたるなり、尚三十一日及び八月一日の兩日も同樣御踐祚式を行はせらる。

詔書

朕菲德ヲ以テ大統ヲ承ケ祖宗ノ靈ニ誥ケテ萬機ノ政ヲ行フ茲ニ先帝ノ定制ニ遵ヒ明治四十五年七月三十日以後ヲ改メテ大正元年トナス主者施行セヨ

御名御璽

內閣各大臣副署

今上天皇陛下は 明治天皇陛下の第三の皇子に在し、御名を嘉仁親王と申し、明宮と稱へ奉る、明治十二年八月三十一日御誕生遊ばされ、明治二十年八月三十一日、東宮宣下あり明治二十二年十一月三日、御年十一歲にて皇太子に立たせ給ひ、明治四十五年七月三十日九五の寶祚を踐ませ給ふ。

皇后陛下は故從一位公爵九條道孝公の第三女におはしまし御名を節子と申し、明治十七年六月二十五日御誕生遊ばされ、明治三十三年五月十日、御年十七歲にて御入輿遊ばさる、明治四十五年七月三十日冊立。

●廢朝及び特免と歌舞音曲停止

大喪に付七月三十一日より五日間廢朝仰出さるべき旨去三十日官報號外を以て告示されたり 又右廢朝中は四人の服役を特免し死刑及笞刑の執行並に歌舞音曲を停止する旨勅令第二號を以て公布されたり。

朝見式詔勅

朕俄に大喪に遭ひ哀痛極り罔し但だ皇位一日も曠くすべからず國政須臾も廢すべからざるを以て朕茲に踐祚の式を行へり顧ふに先帝睿明の資を以て維新の運に膺り萬機の政を親らし內治を振刷し外交を伸張し大憲を制して祖訓を昭にし典禮を頒て蒼生を撫す文敎茲に敷き武備爰に整ひ庶績咸熙り國威維揚る其の盛德鴻業萬民具に仰ぎ列邦共に視る寔に前古未だ曾て有らざる所なり

朕今萬世一系の帝位を踐み統治の大權を繼承す祖宗の宏謨に遵ひ憲法の條章に由りこれが行使を愆ること無く以て先帝の遺業を失墜せざらんことを期す有司須らく先帝に盡したる所を以て朕に事へ臣民亦和衷協同して忠誠を致すべし爾等克く朕が意を體し朕が事を奬順せよ

●先帝御容態御經過

七月二十日飛報天より下る、聖上陛下には去る十四日より御腸胃に少しく御故障あらせられ十五日に及びて御嗜眠の傾きあり十八日より御睡眠加はらせ給ひ御食氣次第に御減少越えて十八日午後に及びて御精神やゝ御恍惚の御狀態にて御惱症あらせられ突然御發熱ありて御體溫四十度五分御脈搏百〇四、御呼吸三十八を數へさせ給ふ。(二十日午前十時三十分宮內省公示)

あゝこれ聖天子萩の戶の奧深ふ惱ませ給ひし第一日の御事ならずや、承り奉る所によれば先帝には去る三十七年中輕き糖尿病に罹らせられ、越えて三十九年一月慢性腎臟炎を病ませ給ひしも人にして人に在しまさぬ御身のなどで病かせ給ふ事の永ふましますべき間もなく癒えさせ給ひてよりは御健康殊の外に勝れさせ給ひて、過る十日には畏くも聖駕を帝國大學に枉げさせらる、蒼生の欣びはやがて一國の慶福となり皇御威陵の彌が上にも輝かせ給ひつるに、あゝそもこれ底事ぞ御惱日を逐ふて加はらせ給ひ、上下の憂懼記しまつるだに言葉も無し。

かくて二十日午前九時、侍醫の外特に東京帝國大學醫科大學敎授醫學博士青山胤通氏及び同醫學博士三浦謹之助兩氏拜診の仰を承り、尿毒御症たる旨を上申す然るに翌二十一日にならせ給へば御体溫三十九度六分、御脈百四乃至百八、御呼吸三十二、と數へまつりて上は皇后陛下皇太子殿下を始めまつり下庶民に至るまで御平癒の御祈願を捧げ奉りてあはれ片時も速に癒えさせませと願ひ奉る、十九日以來卅日午前零時までの御容態左の如しと伺ひ奉りぬ。

御經過一覽表

御拜診日及時間	御体溫	御脈搏	御呼吸
十九日夕	四〇、五	一〇四	三八
二十日前九時	三九、六	一〇八	三二
後七時半	三九、四	一〇三	三三
廿一日前九時	三九、五	一〇二	三二
後三時半	四〇、三	八四	二八
後六時	四〇、〇	八〇	三四
後九時	三七、五	八〇	二八
廿二日前零時	三七、五	八〇	二八
前六時	三八、五	一〇〇	三六
前八時	三九、八	一〇〇	三二
正午	三九、八	九六	三六
後三時半	三八、〇	九八	二六
後七時半	三七、五	八二	三四
廿三日前三時	三八、五	八〇	二六
前六時	三七、六	九六	三三
正午	三七、五	八〇	三四
後三時半	三七、七	八二	三四
後七時半	三七、七	八二	三三
廿四日前零時	三七、七	八〇	三四
前六時	三八、〇	九六	三二
前九時	三七、五	八八	三二
正午	三七、六	八八	三一
後三時半	三八、〇	九六	三〇
後七時	三八、二	一〇五	三七
廿五日前零時	三七、七	一〇三	三四
前六時	三七、六	一〇四	三三
前九時	三七、六	一〇〇	三四
正午	三七、五	八〇	三三
後三時	三七、七	一〇八	三三
後七時	三七、六	一〇〇	三三
廿六日前零時	三八、五	一〇〇	三三
前六時	三八、一	一一〇	三〇
前九時	三七、九	一一〇	三三
正午	三八、〇	一一〇	三六
後三時	三九、一	一一〇	三三
後七時	三八、九	一〇八	三四
後十時	三九、〇	一〇〇	三〇
廿七日前七時	三七、八	一〇〇	三八
前九時	三七、九	一〇〇	三七
正午	三七、六	一〇〇	三〇
後三時	三七、九	九六	三一
後七時	三八、一	一一五	三一
後十時	三八、七	一二六	三三
廿八日前六時	三八、五	一二四	三二
前九時	三八、〇	一〇五	三三
正午	三八、八	一一〇	三〇
後三時	三九、八		

備考
- 御食重湯牛乳少量御排尿三合二勺
- 御尿九百瓦
- 御便通百瓦
- 御腹部鼓脹增加
- 御腹部鼓脹減少
- 御尿量若干
- 御尿量千十一瓦
- 御食量千二百瓦
- 御飲料七百瓦
- 自廿二日前六時至廿三日前六時御便通中六回
- 自廿二日正午至廿三日前六時御尿千八十五瓦
- 自廿三日前三時至前六時御食量九六〇瓦
- 自廿三日正午至廿四日前六時御尿量千百七十三瓦御便通少量一回
- 御食五百六十三瓦 御飲五百八十五瓦
- 他に御異狀不被爲在
- 少しく御疲勞御安靜ならず
- 昨日午後と御大差不被爲在
- 總體今朝御同樣
- 前夜御睡眠少なく御疲勞御脈不整御呼吸シャイネストック型に類似御食量牛乳ーブノ千四十八瓦御尿廿五日前六時より翌日同時迄千六百四十瓦御水便四回
- 總體今朝と御同樣
- 廿七日午前三時頃より御安眠遊ばされ多少御緩和の御模樣也
- 總體今朝御同樣
- 同上
- 御睡眠少なく御安靜にあらせられず御疲勞少しく加はらせらる
- 御脈の結代甚しく御四肢に輕度の御搐搦カンフル及食鹽水の皮下注射差上ぐ

即ち御發病當日より二十七日迄は御病勢一進一退、やゝ御緩和の御模樣にも拜し奉りしが、二十八日に至りやや御不良、二十九日午後八時頃よりは御病狀漸次增惡し、仝十時頃に至り御脈次第に微弱に陷らせられ、御呼吸は益々淺薄となり、御昏睡の御狀態は依然御持續遊ばされ、遂に三十日午前零時四十三分、心臟麻痺により崩御遊ばさる、噫。

●大喪使職員任命

大行天皇大喪事務を掌理する爲めに大喪使左の如く仰付させられたり。

大喪使總裁被仰付 陸軍大將大勳位功二級 貞愛親王

大喪使副總裁被仰付 從二位勳一等伯爵 渡邊千秋

大喪使事務官被仰付 內閣書記官長 南弘 外五十二名

愛國婦人二百五十四號附錄 發行人 八田一精 編輯印刷人 竹內貞三 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京小石川久堅町 博文館印刷所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會會報

本部記事

●有功章贈與

静岡支部田方郡幹事部幹事 河合きく子
同 同 大沼雪野子
同 支部 細井藏之助
同 相磯貞治
同 小川武
同 山田實
同 穂積六亮
同 榎十郎
功績に依り三等有功章贈與(七月十五日)
福島支部長 西久保みさ子
同 顧問 西久保弘道
功績に依り特別徽章贈與
福島支部河沼郡幹事部事務員 堀田又太郎
功績に依り三等有功章贈與(以上七月二十日)

●謝狀贈與

木杯一組 福井支部事務員 笠原又四郎
同 同 同 秋山豐治
同 同 同 石原小三郎
同 同 早苗元
木杯一個 同 三田村正廉
同 同 三谷潤
同 同 田中平太
同 同 事務員 杉本孝男
同 同 同 刀禰五郎兵衛
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與
函館幹事部幹事 砂山みつ子
同 同 佐々木みん子
同 同 杉原いと子
扇子一本 北海道支部幹事 天野せい子
功勞に依り第一種謝狀贈與(以上五月七日)
扇子一本 同 同 山崎藤子
扇子一本婦女鑑一冊 福島支部幹事 栗村みつ子
同 同 同 簗瀨せい子
同 同 同 山口みや子
木杯一個 同 委員 飯盛正利
同 同 同 小川岩二郎
同 同 同 佐々木喜太郎
同 同 同 白岩竹三郎
同 同 同 渡部峻
同 同 同 橫山和一郎
同 同 同 鈴木好太
同 同 同 小野成屋
同 同 同 皆川應助
同 同 同 貝沼小次郎
同 同 同 小森久晉
同 同 同 簗瀨新六郎

同 同 同 寺田義四郎
同 同 同 白岩常太郎
同 同 同 山口熊三郎
功勞に依り特別謝狀並に頭書の通り贈與
北海道支部幹事 村田すゑ子
同 同 杉修子
功勞に依り第一種謝狀贈與(以上五月十日)
木杯一個 岩手支部事務員 平澤貞作
同 同 猪狩旅四郎
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與(五月二十日)
木杯一個 福島支部事務員 栗村五郎
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與
扇子一本 朝鮮本部 加藤せき子
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與(以上五月二十三日)
木杯一組 佐賀支部元事務員 川浪巽温
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與(五月三十一日)
茨城支部幹事 川上かね子
同 同 大川いれ子
同 同 黑澤ため子
功勞に依り特別謝狀贈與(七月十一日)
木杯一組 靜岡支部田方郡幹事部委員 日下部伊太郎
同 同 同 北條八郎
同 同 同 福室幸作
同 同 同 長岡菊太郎
同 同 同 水口喜作
同 同 同 菅沼莊治
同 同 同 青木松
同 同 同 長岡濱之助
同 同 同 鈴木義雄
同 同 同 小川三郎
同 同 同 內田平吉
同 同 同 石渡要吾
同 同 同 大橋信助
同 同 同 室住正和
扇子一本婦女鑑一冊 同 幹事 小川柳子
木杯一個 同 同 渡邊茂雄
同 同支部元田方郡幹事部委員 狩野長重郎
同 同 同 關龍吉
同 同支部 相山甫作
同 同 遠藤平作
同 同 長谷川由藏
同 同 鈴木正樹
同 同 肥田忠作
同 同 日吉茂作
同 同 小林義一
同 同 杉山富藏
同 同 服部岩太郎
同 同 佐野染雄
同 同 長谷川玉成
同 同 小川勝藏
同 同 渡邊智
同 同 內野貞次郎
同 同 深野隆岳

同 同 鈴木八郎
同 同 藤沼信雄
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與
静岡支部田方郡幹事部幹事 大原いわ子
同 同 同 山田いく子
同 同 同 小穴はま子
同 同 同 中村善作
功勞に依り特別謝狀贈與(以上七月十五日)
扇子一本 福島支部河沼郡 生江のい子
同 同 同 堀內つな子
同 同 同 小川みん子
同 同 同 月本ちよ子
功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與
福島支部河沼郡 和田春江子
同 同 鈴木きい子
同 同 鈴木かつ子
同 同 山內たり子
功勞に依り特別謝狀贈與(以上七月廿日)

●教養所記事

▲幼年校在學生の進級

今回陸軍中央幼年學校の學年試驗に於て教養生出身同校生徒松本廣三、富永順太郎の兩名は豫科三年生に、同大坪進、森田榮、小酒孝感、萩原正博の四名は豫科二年生に進級せり、其內松本は實科優等にて賞品を授與され、又大坪は學術優等にて同じく賞品を授與されたり、尚同じく一年生なる河合盛經は病氣の爲め歸省中なるにより全快後特に追試驗を受けしむることゝなれり。

右の內松本、大坪、小酒、萩原の四名は去十一日より來る八月十三日迄夏期休暇中歸省し、富永、森田兩名は同期間教養所に歸寓する事となりたり。

▲學科實習

東京府園藝學校在學教養生秋山末次郎、位田信一、小川右一の三名、宮城縣立水產學校在學教養生山脇芳太郎、金谷磯次兩名は夏期休暇中尚在學して夫々學科を實習することゝなりたり。

▲第二期生歸省

第二期生十五名は八月一日より昨年の例により往復三週間の豫定を以て歸省せしむる事となりたるが、之れに就き鐵道院に於ては特に汽車往復賃金五割引の優遇を與へられたり。

▲會長の厚意

前項歸省の十五名に對し七月十八日同部會長より雜品(半紙二帖、鉛筆一本、葉書二枚、手帳一冊、手拭一筋、清心丹一袋、菓子袋一個)入り袋一個づゝを惠贈せらる、尚外に冷麥及び干菓子各一箱を教養生一同に惠與されたり。

▲賞品贈與式

教養生昨年學期末學業成績は既報の如く頗る良好なりしが去る七月二十日其の優等者に對して賞品授與式を擧行あり、事務總長、教養所所長其他職員臨席の下に左記十七名に對し事務總長より夫れ〱賞品を授與されたり。

姓名	選出支部	姓名	選出支部
長谷川信	愛知	永井一朗	靜岡
金子漸	愛媛	梶田金義	愛知
山口久太郎	北海道	伊林定太郎	富山
永井鞠之助	愛知	鹽原庫三	群馬
土屋吉之助	福島	北野繁次郎	富山
荒木彌太郎	長崎	久保滿雄	熊本
鈴木清直	岩手	金子佐六	佐賀
伊東秀一	愛知	大村大吉	兵庫
永友吉忠	東京		

▲教養生の祈禱

教養生一同は去る二十四日午後三時職員引率の下に宮城二重橋附近に至り遙に誠意を表し御腦の御平癒を祈り奉れり、又教養生は去る二十二日以來毎朝洗面後各自靖國神社に參拜して御快癒を祈禱し居れり。

●彙報

▲天機奉伺

本會々長阿部伯爵夫人は去る二十四日午後一時參內天機を奉伺されたり。

▲御平癒の祈禱

聖上陛下御惱容易ならざる御模樣を拜承し恐懼の餘り去る二十五日午後五時正副會長、理事、監事評議員(東京支部職員參列)及び事務總長等俄に日比谷大神宮に參集し本會々員を代表し事務總長は各事務者を代表して御平癒の祈禱式を執行し各自誠意を表せられたり。

▲例會休會

理事並に評議員會は七、八兩月間例年の通り休會す。

地方記事

廣島支部

▲支部移轉

廣島支部は從來廣島縣廳內に設置したるが今般左記の場所に移轉したり。

廣島市國泰寺村字千田町
日本赤十字社廣島支部內

千葉支部

▲委員區總會

千葉支部安房郡幹事部平群村に於ては去六月二十九日同村小學校に於て第一回會員總會を開催したり、當日は日本赤十字社同村分區第二回總會を兼ねたるより會員及び軍人遺族、廢兵並に社員等の來會者無慮八百有餘人に及び支部よりは手代木事務員、幹事部よりは澤顧問等參會、午後一時開會、幹事部顧問の式辭、支部長の告辭、幹事部顧問の答辭等終りたる後遺族並廢兵十四名に對し支部より菓子料を贈與し、遺族廢兵總代の答辭ありて午後三時式を了へたるが頗る盛會なりき。

新潟支部

▲支部例會

新潟支部にては毎月第三月曜日を定例として支部例會を開くことゝし去六月十七日先づ其第一會例會を赤十字社新潟支部樓上に於て開催せり、來會者は森支部長、石川副長を始め市內幹事會員等三十餘名、午後一時半木戶事務員の開會の辭に次ぎ新潟縣農會技師眞柳辰亮氏の蔬菜に關する有益なる講話あり引續き會務上諸般の協議をなし午後四時散會せり。

愛知支部

▲遭難負傷兵慰藉

去六月十七日滿洲獨立守備隊補充員を搭載せる軍用臨時列車大垣驛に於て荷物列車と衝突し同守備補充兵に七名の死者と五十一名の重輕傷者を出したる大慘事あり傷者を名古屋衞戍病院へ收容に付き當支部は日本赤十字社篤志看護婦人會愛知支會と合同し直に慰問品を贈り且つ支部職員交互親しく病床に慰問せり、而して其負傷者は群馬、茨城、栃木、埼玉、千葉、愛知の六縣に亙り重傷五名、中等症六名其他は輕傷にして已に全治の上去七日當地出發滿洲へ輸送せられたるもの三十五名あり是等に對しては慰藉として更に物品を寄贈し且つ當日は支部職員停車場に見送りをなせり。

今回の事件に關し當支部の行動は遭難者に多大の感動を與へたるのみならず陸軍大臣閣下よりは鄭重なる挨拶狀を受けたり。

尚今後在院治療中の患者に對しては慰問を繼續し又物品を寄贈し若くは出發に際し停車場に見送りをなす等前例による方針なり。

御惱御平癒の祈禱

去る二十八日以來當分の間本會々長以下理事、監事、評議員其他東京支部職員交代を以て日比谷大神宮に參拜し本會を代表して日々 主上御惱の御平癒を祈禱し奉りつゝあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熊本支部

▲支部例會　熊本支部に於ては去六月十七日第三月曜日午後一時より支部例會を日本赤十字社熊本支部に於て開催せり、當日の出席者は宗像支部長及幹事以下會員五十餘名にして河内山主事開會を宣し尾藤新也氏の講演前回よりの續編「曾我物語」あり終りて一二會務の協議を爲し午後五時退散せり、因に當支部例會は來七八兩月間は例年の通り休會す。

▲慰問袋募集狀況　熊本支部に於て募集中の清、鮮在屯の士卒に寄贈すべき慰問袋は續々多數の應募者ありて今日迄支部直轄の會員其他有志者よりの寄贈にして支部に於て受付けたるもののみにても實に豫想外の多數に上り頗る盛況なり。

佐賀支部

▲地久節祝賀　佐賀支部に於ては去五月二十八日午後一時より支部樓上に於て支部役員一同及篤志看護婦人會佐賀支會々員と合同し地久節祝賀會を催したるが御眞影拜賀式に次で佐賀縣師範學校長川島氏の御盛德に關する講話あり、了て茶菓を饗し極めて靜肅に祝意を表し散會したるは午後三時半なりき、因に當日出席者は不破支部長、佐藤副長、評議員池田清子、長谷川瓔、大黑秀子、中野勝子、上村竹子、松尾要子、江副綱子、黑田きち子、吉弘しな子、和田友子、澤野福子、熊谷義躬幹事川原むら子、久米雪子、橋本きみ子、藤山みす子、谷口加代子其他合計四十三名なりき。

▲七山村委員部總會　去四月二十一日佐賀支部東松浦郡七山村委員部第二回會員總會を七山尋常高等小學校内に於て開く、支部よりは副長山本嘉壽子、特別會員川島志滿子諸氏、幹事部よりは柳田顧問、長野事務員臨場定刻に至るや同村委員部委員小形菊太郎氏開會の辭を述べ、引續き戊申詔書並に御令旨を捧讀し、次で會務の報告をなし山本副長は支部長代理として祝詞を朗讀し、柳田顧問其他來賓の有益なる訓示的講演等あり午後三時閉式、夫れより村社賀茂神社境内に於て宴會を開き福引の餘興あり頗る盛會を極め散會したり、當日の參會々員九十四名なり、因に當委員部現在會員數は百十五人にして之れを女子人口數に比すれば五人一九に當り會費の滯納者なく會務整然たり、之れ同村長にして同委員部委員たる小形菊太郎氏其他當事者の熱誠なる盡力に因るものとす。

▲遺族接待　五月六日佐賀市内官祭招魂社春季例祭執行に付き佐賀支部に於ては例年の通り佐賀婦人會附屬幼稚園内に參拜遺族接待所を設け辨當湯茶等を準備し支部長不破政子、副長山本嘉壽子、同佐藤治子以下評議員幹事等二十七人及支部主事、事務員一同出張、外に歩兵第五十五聯隊より吉弘、千代松兩少佐佐野中大尉の各夫人來援せられ午前十時三十分祭典を終ると共に遺族は續々接待所に詰め掛け、園内大廣場を初め二教室共立錐の餘地なきに至り、其間に折詰辨當を配付し湯茶を供給する等奔走に忙殺せらるゝ有樣なりしも役員諸氏の懇切なる斡旋に依り遺族一同大に滿足し感謝の意を表して解散したるは正午過なり、當日參集の遺族數實に七百七十五人に及べり。

茨城支部

▲幹事部總會　茨城支部那珂郡幹事部に於ては去る七月十四日同郡湊町公園内高等小學校にて第一回會員總會を開催したり。當日午前十一時、三發の煙火を合圖に會員五百有餘名、軍人遺族廢兵六十一名及び來賓一同着席、續いて坂支部長は幹事部長丹道子、同顧問丹誠之案内にて副長木間瀨房子、小澤主事、柏事務員等を隨へ臨席さる、やがて幹事部長開會を宣し、一同起立君ケ代三唱の後幹事部顧問總裁殿下の御令旨を捧讀し、次に幹事部長會務の成績を報告し、木間瀨副長、川上かれ子外十三人の功勞者及び西野仁兵衞外九十一人の篤志者に對し本會よりの謝狀を授與し、右終りて坂支部長の告辭、町村長總代安藤俊章氏及び會員總代永井千代子の祝辭あり、丹顧問は參列の遺族廢兵に對し來場の謝辭を述べ、正午十二時閉會を告げたり。式後坂支部長は木間瀨副長等と共に遺族廢兵に對ひ慇懃に慰問の辭を述べ且つ一同へ半紙一包宛を又幹事部よりは記念品等を贈りしより一同何れも感謝に咽ぶを見受けたり。夫れより坂支部長一行は校内に設備せる宴會場に臨席來賓會員及び遺族廢兵等に折詰瓶酒の饗應あり。一同和氣靄々の内に散會したり。因に當日は種々餘興等の催あり町内は皆店頭を裝飾して以外の殷賑を極めり、加ふるに同幹事部は今回の總會に依り即日數十名の新入會者あり尚續々入會者ある見込なり。

廣島支部

●四十四年度事務成績

▲會員　當支部會員增減は別紙第一號第二號表(表略す)の如く本年度末に於て昨年度末より一千二百五十名の增加なり、右は吳市幹事部と深安郡幹事部兩總會開催を機とし會員の增募をなしたる結果新に一千七百餘名を增加したるによるものにして、現在會員總計三萬五千二百七十一人、內特別會員二千五百七十八人、通常會員三萬二千六百九十三人とす。

▲會費　會費整理に付ては常に各幹事部を促し敢て怠ることなきも種々の事情により豫定の如く徵集することを得ず前年度に比し約五步の增加に止まる。

▲救護　遺族廢兵にして定期救護を受けつゝある者は幹事部に於て常に生計の異動を取調べ新に救護を要するものありたるときは支部員を派して實況につき其程度を查定し以て第三號表(表略す)の如く五百十五人に對し金四千百六十圓の救護金を贈與したり、該金額の內二千七百六十九圓は本部の配當にして一千三百九十一圓は支部より支出せり。

▲職員進退　及死亡數は第四號表の如し(表略す)

▲有功章及謝狀　本年度中有功章を授與されたるもの、特別徽章一、二等有功章四、三等有功章二十、特別謝狀五、第一種謝狀十六なり。

▲主要會務　一月六日廣島偕行社に於て當支部職員並陸海軍將校婦人會廣島支部員及日本赤十字社篤志看護婦人會廣島支部會員と新年互禮會を開催す、來會者二百餘名、頗る盛會なりき。

三月三十日吳鎭守府に於て軍艦攝津進水式へ皇太子殿下御臨場の途次廣島驛に於て支部職員奉迎送をなし、且つ御召艦へ果物を獻上したり而して汽車沿道の幹事部職員は最寄停車場にて奉迎送をなしたり。右進水式の節人員を限り本會員に拜觀を許されたるに付き最寄居住の者は數十人拜觀の光榮を得たり。

四月上旬より五月上旬の間に於て第五師團司令部及各部隊滿洲派遣に付き廣島出發の部隊當支部職員は字品港迄見送をなせり。

十月五日廣島西練兵場に於て第五師團管下に於ける戰死者招魂祭執行の節該祭事に參列せし遺族に對し日本赤十字社篤志看護婦人會廣島支會員と合同し廣島偕行社構內に於て茶菓の接待をなせり。

十月二十日皇太子殿下宮島驛より御乘艦の途次、廣島驛御通過被遊に付き支部職員は同驛に於て奉迎送をなし汽車沿道幹事部職員は最寄停車場に於て奉迎送をなしたり。

十月二十九日、長崎支部總會へ本會長阿部伯爵夫人臨場の往復當縣下通過につき支部職員及幹事部職員は最寄停車場にて歡迎送をなしたり。

十月三十一日、吳市幹事部に於て第二回總會を開催し、十一月三日深安郡幹事部に於て第一回總會開催に付き會長の臨場を仰ぎ、支部長及評議員主事事務員等兩所へ出張參列したり。

大元帥陛下九州へ行幸の御往復十一月九日、同十七日廣島驛御通過被遊につき支部並幹事部職員は最寄停車場に於て奉迎送をなしたり。

愛媛支部

●明治四十四年度事務成績

▲會員　一萬九千五百三十九にて內特別會員五百八十四人、通常會員一萬八千九百五十一人、其詳細は別表第一號の如し(別表略す)

▲救護　本年度救護金及生業補助金を支出したるは金三千六百四十二圓、此戶數七百五十八戶にして其細目別表第二號の如し(第二號表略す)但し定期救護金は一戶に對し最高額二十二圓、最少額三圓、生業補助金は同二十圓乃至三十圓にして其種類は八種なり。

▲總會　幹事部以下總會開催數二十回にして此際は遺族並廢兵を招待し優遇をなし特に申請の分には支部長其他の職員出張參列せり。

▲慰問袋寄贈　臺灣討蕃隊並に在滿洲步兵第二十二聯隊へ慰問袋を寄贈したるもの二千九十五袋、此金額六百三圓九十錢なり、詳細は別表の如し(別表略す)

▲功勞者表彰　本部より表彰されたるもの三等有功章十二名、特別謝狀十四名、支部より表彰したるもの謝狀六十六名とす。詳細は第四號表の如し(表略す)

▲職員異動　解囑數五十九名、囑託數百〇五名。

▲軍隊見送　四月九、十一の兩日步兵第二十二聯隊滿洲守備の爲め出發に付き篤志看護婦人會支會と聯合し高濱阜頭に於て盛に見送りをなし休憩所を設け渡航の軍人一千六百餘名に對し茶菓の饗應をなし且つ船中並に駐屯中の無聊を慰する爲め書籍五十四部(此代金二十三圓十二錢)を贈呈したり。

▲遺族接待　五月六、七の兩日松山城內に於て招魂祭執行に付き遺族接待の爲め休憩所を設け當日參拜の遺族一千五百餘名に茶菓を饗し且つ種々接待に努めたり。

▲救恤　八月十五日喜多郡大洲地方は朝來の強雨にて出水し大洲町內は浸水の爲め交通斷絕し暫らく飲料及食事に差支ゆる者多かりしを以て同郡幹事部は不取敢經費金中より白米若干を購入し直に之を炊き右罹災者一同に配與せり。

▲總會參列補助　第十回本會總會の節所管內の五幹事部に對し補助金百五十圓を支出したり、右參列職員は幹事部長四名、同事務員四名。

▲學校補助　私立愛媛盲啞學校に對し支部救護金中より補助として七月、十二月の兩度に金三百圓を支出したり。但し同校は遺族並廢兵の家族の盲啞者をも收容教育しつゝあり。

▲評議員會　開催したる事三回。

▲會計檢查　本縣官會計檢查の際周桑(二月四日)越智(二月十日)新居(二月二十四日)伊豫(二月二十七日)宇摩(二月二十八日)の五幹事部の會計檢查を依囑し施行したり。

▲會員募集費　新入會員募集費の爲本部へ稟議を經本年度より向ふ三ケ年間新募集會員一名に付金二十錢宛支出の旨各幹事部へ通牒せり。

▲年末慰勞　各幹事部に於ける會務の成績を考查し幹事部長四名へ十圓宛、同六名へ十二圓宛、同三名へ十三圓宛、計金百五十一圓を贈與したり。

奈良支部

▲臨時救護計畫　奈良支部に於ては目下米穀及び諸物價の高騰其他疾病の爲め廢兵並に軍人遺族中生計甚だしく困窮を加へ情狀誠に忍ぶ者多かるべきにつき此際臨時救護を施行する事に決し至急調查の上申告する樣各郡市幹事部へ通牒したり。

宮崎支部

▲委員部總會　宮崎支部宮崎郡幹事部住吉村に於て去六月二十六日第一回會員總會を同村小學校內に於て開催せり、參會者三十五名、支部より支部長代理評議員淺井球子、幹事部よりは福田顧問、山川幹事臨席し、午後二時開會、同村委員の開會の辭に次ぎ、支部長の祝詞、福田顧問の會旨に關する講話等ありて式を終り、後茶菓の饗應を爲し午後五時半散會せり。

愛國婦人二百五十四號附錄　發行人 八田一精　編輯兼印刷人 竹內貞三　發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京小石川區久堅町 博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN